

講義コード	U910200101	科目ナンバリング	U910200101
講義名	社会科教育法 I (教職課程)		
英文科目名	Teaching Methods in the Social Science I		
担当者名	梅野 正信		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 木曜日 2時限 西2-505		

授業概要

中学校社会科に関する学習指導要領の内容を歴史背景をふくめて理解し、各分野の教材・授業研究及び開発の方法等の実践的体験を通して、社会科教育、社会科授業実践の基礎・基本を習得する。

到達目標

中学校社会科の分野にわたり、授業を担当するための知的理解と授業実践能力を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション 社会科とは何か
第2回	社会科と学習指導要領
第3回	社会科と社会科教育史
第4回	社会科と映像資料
第5回	社会科とアクティブ・ラーニング(討論・フィールドワーク)
第6回	社会科とアクティブ・ラーニング(アクティビティ)
第7回	社会科における情報機器の活用と情報モラル
第8回	社会科教材研究・授業開発ガイダンス
第9回	地理的分野の教材研究と授業開発
第10回	歴史的分野の教材研究と授業開発
第11回	公民的分野の教材研究と授業開発
第12回	授業開発①地理的分野
第13回	授業開発②歴史的分野
第14回	授業開発③公民的分野
第15回	まとめ 中学校社会科授業の可能性

授業方法

前半は中学校社会科の基本的内容が中心となり、後半には受講者による教材研究・授業開発に関する活動が含まれます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各回の授業で課題を示す。受講者の主体的な準備が必要です。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点では講義中の主体的なY集う、課題への取り組み、レポートでは社会科の目的をふまえた教材研究や授業開発の成果と考察を重視します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

講義中のレポートは講義において取り上げる。最終レポートはコメントを付して返却する。

教科書

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会科編』,文部科学省

参考文献コメント

学習指導要領以外の必要な資料はその都度配布する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910200102	科目ナンバリング	U910200102
講義名	社会科教育法 I (教職課程)		
英文科目名	Teaching Methods in the Social Science I		
担当者名	梅野 正信		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 木曜日 3時限 西2-306		

授業概要

中学校社会科に関する学習指導要領の内容を歴史背景をふくえて理解し、各分野の教材・授業研究及び開発の方法等の実践的体験を通して、社会科教育、社会科授業実践の基礎・基本を習得する。

到達目標

中学校社会科の分野にわたり、授業を担当するための知的理解と授業実践能力を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション 社会科とは何か
第2回	社会科と学習指導要領
第3回	社会科と社会科教育史
第4回	社会科と映像資料
第5回	社会科とアクティブ・ラーニング(討論・フィールドワーク)
第6回	社会科とアクティブ・ラーニング(アクティビティ)
第7回	社会科における情報機器の活用と情報モラル
第8回	社会科教材研究・授業開発ガイダンス
第9回	地理的分野の教材研究と授業開発
第10回	歴史的分野の教材研究と授業開発
第11回	公民的分野の教材研究と授業開発
第12回	授業開発①地理的分野
第13回	授業開発②歴史的分野
第14回	授業開発③公民的分野
第15回	まとめ 中学校社会科授業の可能性

授業方法

前半は中学校社会科の基本的内容が中心となり、後半には受講者による教材研究・授業開発に関する活動が含まれます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各回の授業で課題を示す。受講者の主体的な準備が必要です。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点では講義中の主体的なY集う、課題への取り組み、レポートでは社会科の目的をふまえた教材研究や授業開発の成果と考察を重視します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

講義中のレポートは講義において取り上げる。最終レポートはコメントを付して返却する。

教科書

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会科編』,文部科学省

参考文献コメント

学習指導要領以外の必要な資料はその都度配布する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910201101	科目ナンバリング	U910201101
講義名	社会科教育法Ⅱ（教職課程）		
英文科目名	Teaching Methods in the Social Science Ⅱ		
担当者名	栗原 清		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 水曜日 2時限 西2-504		

授業概要

中学校の教員として、中学校社会科の地理的分野の授業を担当するうえで求められる基本的な知識を修得するとともに、持続可能な社会の構築を意識し、主体的・対話的で深い学びを実現できる授業を行うための教材研究の仕方や指導方法を学ぶ。

到達目標

中学校社会科の地理的分野について、持続可能な社会の構築を意識し、主体的・対話的で深い学びを実現できる授業を行うことができる知識と実践能力を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	これからの中学校社会科地理的分野に求められるもの(1)持続可能な社会の構築
第2回	これからの中学校社会科地理的分野に求められるもの(2)主体的・対話的で深い学び
第3回	地理的分野の目的・内容・評価:学習指導要領を読む
第4回	地理的分野の基本技能:地図・航空写真の解読と情報機器の活用
第5回	地理的分野の基本技能統計の解読・グラフ化と情報機器の活用
第6回	日本の人口問題についての模擬授業準備(1)教材研究
第7回	日本の人口問題についての模擬授業準備(2)学習指導案の作成
第8回	日本の人口問題についての模擬授業と評価
第9回	地球環境問題についての模擬授業準備(1)教材研究
第10回	地球環境問題についての模擬授業準備(2)学習指導案の作成
第11回	地球環境問題についての模擬授業と評価
第12回	世界の文化の多様性と多文化共生についての模擬授業準備(1)教材研究
第13回	世界の文化の多様性と多文化共生についての模擬授業準備(2)学習指導案の作成
第14回	世界の文化の多様性と多文化共生についての模擬授業と評価
第15回	まとめ:高校の「地理総合」を視野に入れた中学校社会科の地理的分野の将来

授業方法

最初の3回は講義が中心となるが、4回目以降は受講者の主体的な作業・発表を軸とした授業を進める。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指示をした学習を、必ず、準備すること。そして、疑問をもって授業にのぞむこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点ではグループ活動における主体性と協働性を重視する。
レポートにおいては、模擬授業の準備と実践経験を振り返り、その改善のための批判的考察を重視する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の授業において、学生からの疑問・質問に対して、教員がコメントをする。

教科書

中学校学習指導要領(平成29年告示),文部科学省,東山書房,2018,978-4827815580

中学校学習指導要領解説社会編,文部科学省,東洋館出版社,2018,978-4491034713

参考文献コメント

その都度指示する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910202101	科目ナンバリング	U910202101
講義名	社会科教育法Ⅲ（教職課程）		
英文科目名	Teaching Methods in the Social Science Ⅲ		
担当者名	石川 和外		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 5時限 西1-302		

授業概要

中学校の歴史教育を中心に社会科教育について学ぶ。後半では指導案を作成し、模擬授業を行う。模擬授業を講評し合うことで、よりよい授業づくりについて考えたい。また、戦争遺跡を通じた平和教育についても考えたい。

到達目標

中学校の社会科（とくに歴史的分野）教員に必要な基本的知識や技術を習得する。また模擬授業を通じた実践を経験する。

授業内容

実施回	内容
第1回	はじめに
第2回	社会科の変遷(1)戦前期
第3回	社会科の変遷(2)戦後(昭和期)
第4回	社会科の変遷(3)戦後(平成期)
第5回	授業研究・教材研究(1)原始古代～近世(江戸時代)
第6回	授業研究・教材研究(2)近現代
第7回	平和教育論
第8回	戦争遺跡の現地研修
第9回	模擬授業(1)歴史①(情報機器の活用を含む)
第10回	模擬授業(2)歴史②(情報機器の活用を含む)
第11回	模擬授業(3)歴史③(情報機器の活用を含む)
第12回	模擬授業(4)歴史④(情報機器の活用を含む)
第13回	社会科教育の諸問題
第14回	まとめ
第15回	自主研究

授業計画コメント

模擬授業の回数は、履修者の数により変更する可能性がある。また文献輪読や個別報告なども行う予定である。

授業方法

講義と受講者による模擬授業、個別報告など。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

模擬授業案を作成するにあたっては、十分に準備してください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	模擬授業

成績評価コメント

上記の3項目を総合的に勘案して評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートを次回の授業や課題に反映させる。

参考文献

学習指導要領
学習指導要領解説

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910210101	科目ナンバリング	U910210101
講義名	公民科教育法 I (教職課程)		
英文科目名	Teaching Methods in civic Studies I		
担当者名	竹下 孝		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 水曜日 5時限 西2-306		

授業概要

中学社会科公民分野及び高等学校公民科の教育が抱える理論的実践的諸課題にどのように向き合うべきか、受講者のみなさんと議論を重ねながら考えたいと思います。また、公民及び公民科の授業をどのように構想・構成すべきか、模擬授業やそれをめぐる討議を踏まえて考えていきたいと思います。

到達目標

中学社会科公民分野及び高等学校公民科の各分野の教育が抱える理論的・実践的諸課題についての認識を深め、また、公民分野及び公民科を構想するために必要な理論を理解し、教育現場で授業を実践する初歩的な諸能力を身につけること。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	公民・公民科における「授業」の構造
第3回	公民科の基本問題を考える(1):学習指導要領における公民・公民科授業の基本理念
第4回	公民科の基本問題を考える(2):政治教育と学習指導要領の解説
第5回	公民科の基本問題を考える(3):憲法・法教育と学習指導要領の解説
第6回	公民科の基本問題を考える(4):経済教育と学習指導要領の解説
第7回	公民科の基本問題を考える(5):道徳・倫理教育と学習指導要領の解説
第8回	法学科学生の模擬授業とその批評
第9回	政治学科学生の模擬授業とその批評
第10回	経済学科学生の模擬授業とその批評
第11回	経営学科学生の模擬授業とその批評
第12回	哲学科学生の模擬授業とその批評
第13回	国際社会科学科学生の模擬授業とその批評
第14回	授業のまとめと情報機器及び教材の活用
第15回	振り返り

授業計画コメント

なお、授業内容はあくまで「予定」であり、受講者数等を考慮して大きく変更する可能性もあります(初回授業時にあらためて授業内容を知らせます)。

授業方法

授業は担当者による講義、受講生同士の(小グループでの)討議及び受講者による模擬授業で構成します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

自らの模擬授業に向けて準備を行う(1時間)。他の受講者の模擬授業について、どのように改善すべきか、授業内での講師の批評や他の受講者の発言を踏まえて考える(30分)。必要に応じて、授業内で紹介する参考文献に目を通す(1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	小レポート(毎回)
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	クラス参加、グループ作業への参加
その他(備考欄を参照)	40 %	模擬授業

成績評価コメント

「平常点」においては、単に授業に出席するだけにとどまらず、グループ作業に対してどれだけ積極的参加したか、クラス全体の議論の深化にどれだけ貢献したかといった点を重視して評価します。また、「小レポート」においては、授業を踏まえてどれだけ自らの思考を働かせたかという点を特に重視して評価します。また、毎回提出を求める「小レポート」においては、授業を踏まえてどれだけ自らの思考を働かせたかという点を評価します。そして、全員が行う模擬授業への取り組みについては、模擬授業への準備は十分であるか、指導案を事前の指導を踏まえて修正しているか、他の模擬授業担当者への講師の評価を踏まえているかといった点を特に重視して評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小レポートについては、授業の中で適宜コメントを行います。模擬授業については指導案をについて事前に修正点を指摘し、それを踏まえて修正された模擬授業の実践を授業内で詳細に分析します。

教科書コメント

特になし

参考文献

高等学校学習指導要領,文部科学省,2018

高等学校学習指導要領解説 公民編,文部科学省,2018

中学校学習指導要領,文部科学省,2017

中学校学習指導要領解説 社会編,文部科学省,2017

参考文献コメント

その他、授業時に適宜紹介します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910210102	科目ナンバリング	U910210102
講義名	公民科教育法 I (教職課程)		
英文科目名	Teaching Methods in civic Studies I		
担当者名	梅野 正信		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 木曜日 5時限 中央-403		

授業概要

高校公民科に関する学習指導要領の内容を歴史背景をふまえて理解し、各分野の教材・授業研究及び開発の方法等の実践的体験を通して、公民科教育、授業実践の基礎・基本を習得する。

到達目標

高等学校公民科関係科目の主題選択、教材研究、授業実践の基礎を習得する。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション 公民科とは
第2回	公民科の学習指導要領
第3回	公民科の歴史
第4回	公民科の特色ある授業実践①現代社会
第5回	公民科の特色ある授業実践②現代社会(応用)
第6回	公民科の特色ある授業実践③政治経済
第7回	公民科の特色ある授業実践④政治経済(応用)
第8回	公民科の特色ある授業実践⑤倫理
第9回	公民科の特色ある授業実践⑥倫理(応用)
第10回	主題設定、教材研究、授業構成、学習指導案作成の方法
第11回	学習指導案の発表と検討①現代社会
第12回	学習指導案の発表と検討②政治経済
第13回	学習指導案の発表と検討③倫理
第14回	学習指導案の発表と検討④公共
第15回	公民科の可能性

授業方法

前半は高校における公民科科目の構成、特色、歴史的背景等に関する講義を中心とし、後半は、受講者による教材研究・授業開発に関する活動が含まれます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各回の授業で課題を示します。受講者は主体的計画的に教材研究、指導案作成を進めます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点では講義への主体的参加と協働性を重視します。レポートにおいては、高校公民科の目的をふまえた教材研究や授業開発の成果と考察を重視します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

講義中のレポートは講義において取り上げます。最終レポートはコメントを付して返却します。

参考文献

高等学校学習指導要領(平成三十年告示)解説 公民編,文部科学省,東京書籍

参考文献コメント

学習指導要領以外の必要な資料はその都度配布する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910211101	科目ナンバリング	U910211101
講義名	公民科教育法Ⅱ（教職課程）		
英文科目名	Teaching Methods in civic Studies Ⅱ		
担当者名	竹下 孝		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 水曜日 5時限 西2-306		

授業概要

中学社会科公民分野及び高等学校公民科各科目における「参加型学習」を受講者に実際に実践してもらいながら、公民・公民科における参加型学習の意義や難しさ、各科目・領域の特質を理解してもらう。また、新科目「公共」の理念や授業実践の具体例を踏まえたうえで、「公共」の模擬授業を行う。

到達目標

中学社会科公民分野及び高等学校公民科における「参加型学習」の意義や諸科目・分野の特質を理解し、また授業案を構成し実践・反省するために不可欠な「授業づくりの技法」や「授業を批評する力」を身につける。また、新科目「公共」の授業を構想する力を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	公民分野・公民科における参加型学習の意義と技法(情報機器・教材の活用を含む)
第3回	法教育(1):「模擬裁判」を通じて考える
第4回	法教育(2):「交渉ゲーム」を通じて考える
第5回	政治教育(1):「模擬投票」を通じて考える
第6回	政治教育(2):「政策合意形成ゲーム」を通じて考える
第7回	経済・国際理解教育:「貿易ゲーム」を通じて考える
第8回	公民科新科目「公共」の理念・構造・実践例
第9回	「公共」の模擬授業:公共の扉(1)
第10回	「公共」の模擬授業:公共の扉(2)
第11回	「公共」の模擬授業:法的主体に関すること
第12回	「公共」の模擬授業:政治的主体に関すること
第13回	「公共」の模擬授業:経済的主体に関すること
第14回	「公共」の模擬授業:情動的主体に関すること(情報機器・教材の活用を含む)
第15回	授業のまとめ

授業計画コメント

なお、授業内容はあくまで「予定」であり、受講者数等を踏まえ大きく変更する可能性もある(初回授業時にあらためて授業内容をお知らせします)。

授業方法

各小グループによる参加型学習の実践(模擬授業)、それについての受講者の討議(グループワーク)により構成する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各グループでの模擬授業案の作成を行うこと(約1時間)。また他のグループの実践について、授業内での議論を踏まえて考察すること(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	小レポート(毎回)
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	クラス参加、グループ作業への参加
その他(備考欄を参照)	30 %	模擬授業

成績評価コメント

平常点においては、特に、グループ作業に積極的に参加しているか、クラス全体での議論の深化に貢献しているかという観点から評価する。毎回の小レポートにおいては、授業を踏まえて自身の思考をきちんと働かせていることを重視する。また、全員が行う模擬授業への取り組みを評価するが、その際には、きちんと準備しているか、事前の指導を踏まえて指導案を修正しているか、他の模擬授業担当者への講師の批評を踏まえているかといった点を特に重視して評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小レポートについては、授業内で適宜コメントする。模擬授業については、事前に指導案の修正すべき点を指導し、また実践後、業内で詳細に分析・批評を行う。

参考文献

高等学校学習指導要領,2018

高等学校学習指導要領解説 公民編 ,2018

中学校学習指導要領,2017

中学校学習指導要領解説 社会編,2017

参考文献コメント

その他の参考文献は、授業時に適宜紹介する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

グループ作りをするので、一回目の授業は必ず参加すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910211102	科目ナンバリング	U910211102
講義名	公民科教育法Ⅱ（教職課程）		
英文科目名	Teaching Methods in civic Studies Ⅱ		
担当者名	梅野 正信		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 木曜日 5時限 中央-403		

授業概要

高校公民科に関する学習指導要領の内容を歴史背景をふまえて理解し、各分野の教材・授業研究及び開発の方法等の実践的体験を通して、公民科教育、授業実践の基礎・基本を習得する。

到達目標

高等学校公民科関係科目の主題選択、教材研究、授業実践の基礎を習得する。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション 公民科の授業
第2回	公民科の学習指導要領と授業の可能性
第3回	主題設定、教材研究、授業構成、学習指導案作成の方法
第4回	公民科と人権教育
第5回	公民科と生命倫理
第6回	公民科と道徳
第7回	公民科と規範
第8回	公民科と主権者
第9回	公民科と国際理解
第10回	学習指導案の構想発表と検討
第11回	授業構想と学習指導案 発表と検討1(人権・生命倫理)
第12回	授業構想と学習指導案 発表と検討2(道徳・規範)
第13回	授業構想と学習指導案 発表と検討3(主権者・国際理解)
第14回	授業構想と学習指導案 発表と検討4(総括討論)
第15回	公民科の可能性

授業方法

前半は高校における公民科科目の主題設定、教材研究、授業方法等に関する講義を中心とし、後半は、受講者による教材研究・授業開発に関する活動が含まれます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各回の授業で課題を示します。受講者は主体的計画的に教材研究、指導案作成を進めます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点では講義への主体的参加と協働性を重視します。レポートにおいては、高校公民科の目的をふまえた教材研究や授業開発の成果と考察を重視します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

講義中のレポートは講義において取り上げます。最終レポートはコメントを付して返却します。

参考文献

高等学校学習指導要領(平成三十年告示)解説 公民編,文部科学省,東京書籍

参考文献コメント

学習指導要領以外の必要な資料はその都度配布します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910220101	科目ナンバリング	U910220101
講義名	情報科教育法 I (教職課程)		
副題	普通教科「情報」を中心に		
英文科目名	Teaching Methods in Informatics I		
担当者名	田中 一樹		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 火曜日 5時限 西2-202		

授業概要

教科「情報」の設置経緯および教育目標、内容や指導方法について、小学校・中学校との連携や他教科との連携面も絡め、主に普通教科「情報」に関する教材研究および評価方法について、講義や演習などを組み合わせて実施する。

到達目標

情報科教員としての基礎的スキルの修得を目的とすることから「情報教育に求められる社会情勢について理解し、他教科や小・中学校の履修内容に縦横断する知見を有し、変遷し続ける情報社会に対応できるようになる」ため、次を目標とする。

- ・生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解する。
- ・教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
- ・学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
- ・当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	情報科教育法 I を受講するに当たっての取組みについて
第2回	概論～情報科社会と情報教育の歩み～
第3回	教科の特性、小学校や中学校および他教科との連携
第4回	「情報科」担当教員の資質と求められる校務分掌
第5回	新指導要領の特徴および総合的学習と絡めた情報科における課題作成演習
第6回	情報倫理教育への取組みと事件事例の検討(1)～社会的事件事例～
第7回	情報倫理教育への取組みと事件事例の検討(2)～学校や生徒が絡む事件事例～
第8回	必修「情報 I」と選択「情報 II」の特徴の比較
第9回	必修「情報 I」の授業計画と評価(1)～到達目標と評価～
第10回	必修「情報 I」の授業計画と評価(2)～授業計画の立案～
第11回	選択「情報 II」の授業計画と評価(1)～到達目標と評価～
第12回	選択「情報 II」の授業計画と評価(2)～授業計画の立案～
第13回	情報教員としての総括
第14回	理解度の確認とまとめ
第15回	到達度確認

授業計画コメント

特記事項なし

授業方法

講義形式と調査学習、グループワーク、プレゼンテーションを組み合わせで行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

次回内容についての資料調査とまとめ(約3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	最終課題
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	主に出席状況、相互評価への参加度
その他(備考欄を参照)	30 %	主にグループワークや発表

成績評価コメント

幅広い視野や気づきについて、評価点に加点する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

グループワークやプレゼンテーションについて、授業内で講評し、個人に改善点を伝える。

教科書

情報編: 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説, 文部科学省, 開隆堂出版, 2019, 9784304021633

教科書コメント

文科省のサイトからダウンロードしたものを印刷したのもでも可。

履修上の注意

初回から出席するように努めること。

その他

専門教科「情報」は情報科教育法Ⅱで扱う。(隔年開講なので注意)
連絡はE-mailによる。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910230101	科目ナンバリング	U910230101
講義名	地理歴史科教育法 I (教職課程)		
副題	授業を成り立たせるのに必要な要素は何か？		
英文科目名	Teaching Methods in Geography and History I		
担当者名	加藤 政夫		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 金曜日 5時限 西1-108		

授業概要

中学校・高等学校の地理歴史科(以下、地歴科)の授業を立案し実施するためには何が必要かということ、講義と受講者自身による「模擬授業」を通じて学習する。「模擬授業」とは、模擬授業そのものだけでなく、その後の意見交換などを含めたものをいう。また、講義では地歴科という教科の目的や性質、及び、その現状や問題点などをとりあげてゆく。

到達目標

授業を成り立たせるのに必要な要素とは何かということ、講義や模擬授業を通じて理解し、地歴科の授業を立案・実施する力を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	「オリエンテーション(1)履修希望者の確認」および、「学習指導要領」について／「学習指導案」について／「経験主義と系統主義」について。
第2回	「オリエンテーション(2)履修希望者の確認」および、「授業時間・授業回数・学習内容・指導方法・生徒数など、諸要素の兼ね合い」について。
第3回	「オリエンテーション(3)履修者の最終確認と人数調整」および、「人間の認識や学習のメカニズム(認識→記憶→思考→表現→伝達／抽象化⇄具体化の往還)」について。
第4回	「オリエンテーション(4)模擬授業の割り当て」および、「地理という教科・歴史という教科の特性」について。
第5回	模擬授業(1)「東アジア世界」
第6回	模擬授業(2)「イスラム世界」
第7回	模擬授業(3)「東方貿易」
第8回	中間討論と教材解釈／「教材と学習内容」、「情報機器及び教材の活用①」
第9回	模擬授業(4)「新航路の開拓」
第10回	模擬授業(5)「産業革命」
第11回	模擬授業(6)「市民革命1」
第12回	模擬授業(7)「市民革命2」
第13回	教材解釈／「歴史的概念の取り扱い方」、「情報機器及び教材の活用②」
第14回	まとめと討論／「レポートを書くのに必要なことは何か?」、「授業を成り立たせるのに必要なものは何か?」
第15回	予備日

授業方法

講義と受講者による模擬授業。「模擬授業」とは、模擬授業そのものだけでなく、その後の意見交換などを含めたものをいう。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

大学生なので自分で考えて下さい。教員になるためには、まずは自分で考えて判断してみるという習慣をつけることが非常に大切です。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	55 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	45 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学期末レポートに授業、模擬授業への取り組み方を加味して評価を行う。
 ・レポート:55%(模擬授業や講義を通じて明らかになったことが論理的に説明されているかどうか。)
 ・平常点:45%(授業への参加、模擬授業・討論・意見交換の取り組み方。)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内でフィードバック。そのために、「まとめ」や「討論」、「意見交換」などが設けてある。

参考文献

学習指導要領

社会科 重要用語300の基礎知識: 重要用語300の基礎知識④, 森分孝治・片山宗二 編, 明治図書

参考文献コメント

これ以外については、授業内で適宜指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。(25名)

その他

第1回目又は、第2回目の授業に必ず出席のこと。履修希望者は、第1回目授業または第2回目授業のどちらかに必ず出席した上で、最終的な履修希望の意思表示を第3回目の授業にて行うこと。授業では履修者全員に模擬授業を行ってもらふ。模擬授業では、その日の担当者が模擬的な授業を行ったあと、出席者全員でディスカッションや意見交換を行い、教員による教材解釈も行わなければならない。これを半期の授業回数で行うという時間の制約上、履修者数は20名程度、多くても25名までが好ましい。そのため、場合によっては人数調整をお願いすることもある。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910230102	科目ナンバリング	U910230102
講義名	地理歴史科教育法 I (教職課程)		
英文科目名	Teaching Methods in Geography and History I		
担当者名	内野 敦		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 火曜日 5時限 南1-101		

授業概要

歴史を教えることは楽しいけれど、難しい。ともすると人名や地名を詰め込むだけの無味乾燥な授業になりがちです。できることなら、生きている歴史、人間の血の通う歴史を教えたい。生徒にとって、知識が一生の宝となるような授業をしたい。でも、どうすればよいのでしょうか？一緒に考えていきましょう。また、後半は受講者全員に模擬授業をやってもらいます。下手でもかまいませんから、しっかり授業準備しておくことが大切です。

到達目標

- ・歴史教育について、自分なりの理想をもつようになる。
- ・教育実習で、堂々と授業ができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	歴史の教師になるには？学習指導要領とは？ 歴史教育の問題点とは？
第2回	身近なものから歴史を学ぶ
第3回	名言で学ぶ世界史1(西洋史)
第4回	名言で学ぶ世界史2(東洋史)
第5回	情報機器及び教材の活用
第6回	授業を組み立てる
第7回	模擬授業1(西洋史)
第8回	模擬授業2(西洋史)
第9回	模擬授業3(東洋史)
第10回	模擬授業4(東洋史)
第11回	模擬授業5(日本史・地理)
第12回	模擬授業6(日本史・地理)
第13回	模擬授業7(日本史・地理)
第14回	まとめ
第15回	振り返り

授業方法

講義と模擬授業(ディスカッション含む)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・模擬授業では、教材プリントと板書案を作成すること(2時間)。
- ・模擬授業では、自分の選んだテーマについて本を読み、自分の頭の中で消化してくること(3時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	学期末にレポート提出
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	出席を重視します
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

毎回必ず出席をとります。出席点を最重視します。模擬授業は必ず1度はやってもらいます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

模擬授業については、コメントを行います。

教科書コメント

特定の教科書は使用しませんが、高校世界史Bの教科書あるいは参考書を用意してください。

参考文献

高等学校学習指導要領解説地理歴史編,文部科学省,教育出版

参考文献コメント

他の文献は授業の中で随時紹介します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910231101	科目ナンバリング	U910231101
講義名	地理歴史科教育法Ⅱ（教職課程）		
英文科目名	Teaching Methods in Geography and History Ⅱ		
担当者名	石川 和外		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 水曜日 5時限 西1-302		

授業概要

高等学校の歴史教育を中心に地理歴史科教育について学ぶ。後半では指導案を作成し、模擬授業を行う。模擬授業を講評し合うことで、よりよい授業づくりについて考えたい。また、戦争遺跡を通じた平和教育についても考えたい。

到達目標

高等学校の地理歴史科（とくに日本史）教員に必要な基本的知識や技術を習得する。また模擬授業を通じた実践を経験する。

授業内容

実施回	内容
第1回	はじめに
第2回	地理歴史科の変遷(1)戦前期
第3回	地理歴史科の変遷(2)戦後(昭和期)
第4回	地理歴史科の変遷(3)戦後(平成期)
第5回	授業研究・教材研究(1)原始古代～近世(江戸時代)
第6回	授業研究・教材研究(2)近現代
第7回	平和教育論
第8回	戦争遺跡の現地研修
第9回	模擬授業(1)日本史①(情報機器の活用を含む)
第10回	模擬授業(2)日本史②(情報機器の活用を含む)
第11回	模擬授業(3)日本史③(情報機器の活用を含む)
第12回	模擬授業(4)日本史④(情報機器の活用を含む)
第13回	地理歴史教育の諸問題
第14回	まとめ
第15回	自主研究

授業計画コメント

模擬授業の回数は、履修者の数により変更する可能性がある。

授業方法

講義と受講者による模擬授業など。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

模擬授業案を作成するにあたっては、十分に準備してください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	模擬授業

成績評価コメント

上記の3項目を総合的に勘案して評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートを次回の授業や課題に反映させる。

参考文献

学習指導要領
学習指導要領解説

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910231102	科目ナンバリング	U910231102
講義名	地理歴史科教育法Ⅱ（教職課程）		
英文科目名	Teaching Methods in Geography and History Ⅱ		
担当者名	延 智子		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 火曜日 5時限 西1-104		

授業概要

高等学校の地理歴史科教育(日本史を中心として)について、講義と模擬授業をもとに学習する。講義では地理歴史科教育の変遷や問題点等を取り上げる。模擬授業では教育実習で自信をもって教壇実習に臨める力をつけることをめざす。

到達目標

高等学校の地理歴史科教員(日本史を中心として)に必要な基礎的知識や技術を習得する。模擬授業の経験を通じて教材研究の重要性を理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	はじめに 授業方針の説明等
第2回	地理歴史科教育の変遷(1) 戦前・戦後の地理歴史科教育
第3回	地理歴史科教育の変遷(2) 現行の学習指導要領
第4回	地理歴史科教育の変遷(3) 新学習指導要領
第5回	授業研究・教材研究(1) 学習指導案の作成
第6回	授業研究・教材研究(2) 授業評価の観点 情報機器及び教材の活用
第7回	模擬授業(1)(日本史)
第8回	模擬授業(2)(日本史)
第9回	模擬授業(3)(日本史)
第10回	模擬授業(4)(日本史)
第11回	模擬授業(5)(東洋史)
第12回	模擬授業(6)(西洋史)
第13回	模擬授業(7)(地理)
第14回	授業のまとめ
第15回	振り返り

授業計画コメント

一人当たりの模擬授業の回数は履修者の人数により変更する可能性がある。

授業方法

講義と履修者による模擬授業等。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

模擬授業案は十分に教材研究をして作成すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	模擬授業とその後の討論、コメント

成績評価コメント

上記3つの内容を合わせて総合的に評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートは次回の授業や課題に反映させる。

参考文献

高等学校学習指導要領解説:地理歴史編,文部科学省,東洋館出版社,2019,9784491036410

履修上の注意

第2回目の授業に必ず出席すること(模擬授業の順番を決めるため)。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910240101	科目ナンバリング	U910240101
講義名	国語科教育法 I (教職課程)		
英文科目名	Teaching Methods (the Japanese Language) I		
担当者名	岩崎 淳		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 木曜日 4時限 西2-502		

授業概要

中学・高校の国語科の教員として必要な知識を学ぶ。模擬授業・相互交流などとおして実践的な経験を重ねる。

到達目標

教材研究の意義を理解し、自分の力で教材研究ができるようになる。授業準備の方法を学び、学習指導案の作成や指導計画の立案ができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明 授業開き
第2回	学習指導要領
第3回	学習指導案 言葉の特徴や使い方に関する事項
第4回	詩の学習指導 情報の扱い方に関する事項
第5回	小説の学習指導 我が国の言語文化に関する事項
第6回	図書紹介文作成
第7回	グループミーティング 評価
第8回	学習指導 読むこと
第9回	学習指導 話すこと聞くこと
第10回	読書指導の方法 学習指導 書くこと
第11回	情報活用型の読書指導 指導計画作成の考え方
第12回	読書教材の研究 模擬授業(読むこと)
第13回	読書指導の意義 模擬授業(言語文化)
第14回	情報機器の活用 模擬授業(書くこと)
第15回	理解度の確認(試験含む)

授業計画コメント

受講者数や受講状況に応じて授業計画を変更する可能性がある。

授業方法

能動的に聞く、文章を書く、発表をする、グループ話し合うなどの活動を取り入れる。授業の最初に確認テストを実施する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定されたテキストのページをあらかじめ読んでおくこと(約1時間)。模擬授業の教材と指導案をあらかじめ読んでおくこと(約2時間)。いずれも詳細は授業時に指示する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	10 %	
小テスト	20 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):40%(出席、提出物、受講状況等を総合的に判断する)・第1学期(学期末試験):20%(習得内容の確認を行う)・レポート10%(授業時に指示する)・小テスト20%(授業時に指示する)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは返却してコメントする。

教科書

「新しい国語科教育」基本指導の提案,岩崎 淳,さくら社,2012,9784904785539

参考文献

参考文献コメント

詳しくは授業時に指示する。その他の参考図書も随時紹介する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

遅刻・欠席は厳しく減点する。2回の遅刻を1回の欠席として扱う。15分以上の遅刻は欠席とする。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910240102	科目ナンバリング	U910240102
講義名	国語科教育法 I (教職課程)		
英文科目名	Teaching Methods (the Japanese Language) I		
担当者名	岩崎 淳		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 木曜日 5時限 西2-502		

授業概要

中学・高校の国語科の教員として必要な知識を学ぶ。模擬授業・相互交流などとおして実践的な経験を重ねる。

到達目標

教材研究の意義を理解し、自分の力で教材研究ができるようになる。授業準備の方法を学び、学習指導案の作成や指導計画の立案ができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明 授業開き
第2回	学習指導要領
第3回	学習指導案 言葉の特徴や使い方に関する事項
第4回	詩の学習指導 情報の扱い方に関する事項
第5回	小説の学習指導 我が国の言語文化に関する事項
第6回	図書紹介文作成
第7回	グループミーティング 評価
第8回	学習指導 読むこと
第9回	学習指導 話すこと聞くこと
第10回	読書指導の方法 学習指導 書くこと
第11回	情報活用型の読書指導 指導計画作成の考え方
第12回	読書教材の研究 模擬授業(読むこと)
第13回	読書指導の意義 模擬授業(言語文化)
第14回	情報機器の活用 模擬授業(書くこと)
第15回	理解度の確認(試験含む)

授業計画コメント

受講者数や受講状況に応じて授業計画を変更する可能性がある。

授業方法

能動的に聞く、文章を書く、発表をする、グループ話し合うなどの活動を取り入れる。授業の最初に確認テストを実施する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定されたテキストのページをあらかじめ読んでおくこと(約1時間)。模擬授業の教材と指導案をあらかじめ読んでおくこと(約2時間)。いずれも詳細は授業時に指示する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	10 %	
小テスト	20 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):40%(出席、提出物、受講状況等を総合的に判断する)・第1学期(学期末試験):20%(習得内容の確認を行う)・レポート10%(授業時に指示する)・小テスト20%(授業時に指示する)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは返却してコメントする。

教科書

「新しい国語科教育」基本指導の提案,岩崎 淳,さくら社,2012,9784904785539

参考文献

参考文献コメント

詳しくは授業時に指示する。その他の参考図書も随時紹介する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

遅刻・欠席は厳しく減点する。2回の遅刻を1回の欠席として扱う。15分以上の遅刻は欠席とする。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910241101	科目ナンバリング	U910241101
講義名	国語科教育法Ⅱ（教職課程）		
英文科目名	Teaching Methods (the Japanese Language) Ⅱ		
担当者名	本橋 幸康		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 月曜日 3時限 西1-310		

授業概要

教育基本法の改正、学校教育法の改正、学習指導要領の改訂、教科書の改訂等々、近年教育に関する政策がめまぐるしく変わりつつある。そうした時代の中で国語科教育が果たす役割、国語科の授業づくりを受講者とともにじっくりと考えたい。本講義では、中学校・高等学校学習指導要領の内容と構成を理解したり、授業を構想したり、授業実践や研究を踏まえて、学習指導論、学力論等について考察する。

到達目標

当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション(本講義の目的と概要)
第2回	国語科教育の今日的課題と学習指導要領の改訂について
第3回	「全国学力・学習状況調査」における学力観と課題について
第4回	「全国学力・学習状況調査」の結果を踏まえた授業づくりについて
第5回	学習指導要領の目標と内容について
第6回	言語活動の充実とアクティブ・ラーニングについて
第7回	学習過程の明確化について
第8回	伝統的な言語文化の授業づくりについて
第9回	国語科教科書の特質について
第10回	学習指導案の作成(中学校国語)
第11回	学習指導案の作成(高等学校国語)
第12回	説明的文章の教材研究について
第13回	文学的文章の教材研究について
第14回	授業実践の実際について
第15回	これからの時代に求められる国語科教育について

授業方法

各回の授業では、ペアやグループでの話し合いなどのグループワーク、パンフレットやリーフレット作り、コメントシートの作成・交流、スピーチ、発表など、多くの言語活動を取り入れて行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

中学校学習指導要領解説国語編(平成29年3月公示 文部科学省)・高等学校学習指導要領解説国語編(平成30年7月告示 文部科学省)を必要に応じて読むこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	0 %	
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト	0 %	
レポート	20 %	
小テスト	0 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	0 %	

成績評価コメント

毎時間の課題について、内容を理解し、目的に応じて表現を工夫して伝え合うこと。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

前時の課題やレポートについて、数名の学生のコメントを印刷配布して共有し、理解を深める。

教科書

実践国語研究,水戸部修治・岩崎淳・本橋幸康,明治図書出版,8/9月号,2020,ISSN0288-8653

教科書コメント

明治図書『実践国語研究』4／5月号

参考文献

高等学校学習指導要領解説国語編,文部科学省,東洋館出版社,2019,4491036403

中学校学習指導要領解説国語編,文部科学省,東洋館出版社,2018,4491034702

参考文献コメント

授業中に適宜資料を配布する。

履修上の注意

単位取得の条件として、全授業の2／3以上の出席を必要とする。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910241102	科目ナンバリング	U910241102
講義名	国語科教育法Ⅱ（教職課程）		
英文科目名	Teaching Methods (the Japanese Language) Ⅱ		
担当者名	本橋 幸康		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 月曜日 5時限 西2-203		

授業概要

教育基本法の改正、学校教育法の改正、学習指導要領の改訂、教科書の改訂等々、近年教育に関する政策がめまぐるしく変わりつつある。そうした時代の中で国語科教育が果たす役割、国語科の授業づくりを受講者とともにじっくりと考えたい。本講義では、中学校・高等学校学習指導要領の内容と構成を理解したり、授業を構想したり、授業実践や研究を踏まえて、学習指導論、学力論等について考察する。

到達目標

当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション(本講義の目的と概要)
第2回	国語科教育の今日的課題と学習指導要領の改訂について
第3回	「全国学力・学習状況調査」における学力観と課題について
第4回	「全国学力・学習状況調査」の結果を踏まえた授業づくりについて
第5回	学習指導要領の目標と内容について
第6回	言語活動の充実とアクティブ・ラーニングについて
第7回	学習過程の明確化について
第8回	伝統的な言語文化の授業づくりについて
第9回	国語科教科書の特質について
第10回	学習指導案の作成(中学校国語)
第11回	学習指導案の作成(高等学校国語)
第12回	説明的文章の教材研究について
第13回	文学的文章の教材研究について
第14回	授業実践の実際について
第15回	これからの時代に求められる国語科教育について

授業方法

各回の授業では、ペアやグループでの話し合いなどのグループワーク、パンフレットやリーフレット作り、コメントシートの作成・交流、スピーチ、発表など、多くの言語活動を取り入れて行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

中学校学習指導要領解説国語編(平成29年3月公示 文部科学省)・高等学校学習指導要領解説国語編(平成30年7月告示 文部科学省)を必要に応じて読むこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	0 %	
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト	0 %	
レポート	20 %	
小テスト	0 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	0 %	

成績評価コメント

毎時間の課題について、内容を理解し、目的に応じて表現を工夫して伝え合うこと。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

前時の課題やレポートについて、数名の学生のコメントを印刷配布して共有し、理解を深める。

教科書

実践国語研究,水戸部修治・岩崎淳・本橋幸康,明治図書出版,8/9月号,2020,ISSN0288-8653

教科書コメント

明治図書『実践国語研究』4／5月号

参考文献

高等学校学習指導要領解説国語編,文部科学省,東洋館出版社,2019,4491036403

中学校学習指導要領解説国語編,文部科学省,東洋館出版社,2018,4491034702

参考文献コメント

授業中に適宜資料を配布する。

履修上の注意

単位取得の条件として、全授業の2／3以上の出席を必要とする。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910242101	科目ナンバリング	U910242101
講義名	国語科教育法Ⅲ（教職課程）		
英文科目名	Teaching Methods (the Japanese Language) Ⅲ		
担当者名	小原 俊		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 1時限 西2-406		

授業概要

中学校・高等学校の国語科の教科書に採録されている文章教材を取り上げ、グループワークによる検討を通して主体的な学習活動を導き出す課題の設定法と発問・助言のあり方に関する考察を深める。授業における情報通信機器の活用について、現在の環境下でどのようなことが可能か基本的な認識を持つ。受講生による模擬授業も教材を指定し、可能な限り実施する。教材の適切な選定と取り扱い、授業を実施するに当たって必要となる学習者への公正な態度と人権を尊重する精神を学ぶ。

到達目標

教材や資料の特徴を活かし、主体的で対話的な学習活動を導き出す課題を考案することができるようになる。
国語科における情報通信機器の導入に関する基本的な認識を習得し、活用法について検討することができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明 「PISA2018」の調査結果概要
第2回	概要説明 情報通信機器を導入した今後の学校教育（「GIGAスクール」構想等）
第3回	主体的な課題解決学習の実際（小説教材の取扱い1）
第4回	主体的な課題解決学習の実際（小説教材の取扱い2）
第5回	主体的な課題解決学習の実際（課題設定と話し合いについて）
第6回	実践演習：模擬授業と課題の検討①小説教材
第7回	実践演習：模擬授業と課題の検討②小説教材
第8回	主体的な課題解決学習の実際（説明文教材の取扱い1）
第9回	主体的な課題解決学習の実際（説明文教材の取扱い2）
第10回	主体的な課題解決学習の実際（評論教材の取扱い）
第11回	情報通信機器及び教材の活用に関する試行（タブレットあるいはスマートフォン）
第12回	実践演習：模擬授業と課題の検討③説明文教材
第13回	実践演習：模擬授業と課題の検討④説明文教材
第14回	実践演習：模擬授業と課題の検討⑤評論教材
第15回	理解度の確認

授業計画コメント

学習の進捗を考慮し、実施する授業の順序と内容を変更する場合がある。

授業方法

演習：各授業の前半に要点を解説し、後半にグループワークを実施する。
模擬授業については可能な限り時間を設けて体験させる予定である。

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

予習：事前に指定した教材、または授業で配付する教材や資料等を読み、概要を把握すること（約45分）。
復習：授業で使用した教材について、主体的な学習活動を促す課題を各自考案すること（約45分）。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	受講内容の理解、課題に関する考察の力
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	課題作成方法に関する習熟の度合い
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	出席、グループ学習への取り組みと成果
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点：各回実施する演習の成果（提出物）を蓄積することによって学習への取り組みを評価する。
レポート：課題設定の意図について、教材の特徴からみた適切性を評価する。
試験：受講によって理解した内容の確認と応用問題への考察の深度を評価する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

グループワークの結果について毎回集計し、次時に資料として配付、解説を行う。

教科書

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編,文部科学省,東洋館出版社,2018,978-4491034706

教科書コメント

高等学校学習指導要領の「国語」については、改訂の要点を含む情報を授業において解説する。

参考文献コメント

使用する資料・参考文献については授業において指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

遅刻・欠席は厳しく減点するので注意(2回の遅刻を1回の欠席として扱う)。15分以上の遅刻は、やむを得ず遅刻するに至った事由を証明する書類等を提出しない限り欠席として扱う。なお、教育実習、介護実習等で欠席せざるを得ない場合は証明する書類を必ず提出すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910243101	科目ナンバリング	U910243101
講義名	国語科教育法Ⅳ（教職課程）		
英文科目名	Teaching Methods (the Japanese Language) Ⅳ		
担当者名	岩崎 淳		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 4時限 西2-502		

授業概要

中学・高校の国語科の教員として必要な知識を学ぶ。模擬授業・相互交流などとおして実践的な経験を重ねる。

到達目標

教材研究の意義を理解し、自分の力で教材研究ができるようになる。授業準備の方法を学び、学習指導案の作成や指導計画の立案ができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明 学習指導要領の内容
第2回	学力論 情報に関する事項
第3回	話すことの基本
第4回	話すことの学習指導 随筆の学習指導
第5回	聞くことの学習指導
第6回	敬意表現
第7回	言葉の学習指導 話し合いの活動
第8回	学習指導案の作成
第9回	情報機器の活用 模擬授業 論語
第10回	模擬授業 俳句
第11回	模擬授業 漢字
第12回	模擬授業 言語文化
第13回	模擬授業 導入の指導
第14回	模擬授業 説明文
第15回	理解度の確認(試験含む)

授業計画コメント

受講者数や受講状況に応じて授業計画を変更する可能性がある。

授業方法

能動的に聞く、文章を書く、発表をする、グループ話し合うなどの活動を取り入れる。授業の最初に確認テストを行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定されたテキストのページをあらかじめ読んでおくこと(約1時間)。模擬授業の教材と指導案をあらかじめ読んでおくこと(約2時間)。いずれも詳細は授業時に指示する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	30 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):40%(出席、提出物、受講状況等を総合的に判断する)・学年末試験:30%(習得内容の確認を行う)・小テスト30%(授業時に指示する)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テストについてコメントする。

教科書

「新しい国語科教育」基本指導の提案,岩崎 淳,さくら社,2012,9784904785539

参考文献

参考文献コメント

詳しくは授業時に指示する。その他の参考図書も随時紹介する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

遅刻・欠席は厳しく減点する。2回の遅刻を1回の欠席として扱う。15分以上の遅刻は欠席とする。
シラバスに書かれている内容を変更する場合がある。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910251101	科目ナンバリング	U910251101
講義名	書道科教育法Ⅱ（教職課程）		
英文科目名	Teaching Methods (Calligraphy) Ⅱ		
担当者名	松岡 千賀子		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 水曜日 2時限 西1-310		

授業概要

- ①文字の名称・成立と日中書道史の理解を深める。
- ②多様な古典の名品を教材として、学習者のレベルに応じた指導方法を考える。

到達目標

- ①書に関する応用的な知識を身につける。
- ②様々な指導方法を習得する。

授業内容

実施回	内容
第1回	概説、指導要領の確認
第2回	指導案の作成、情報機器及び教材の活用
第3回	楷書の指導法(表現の工夫)、模擬授業
第4回	楷書の指導法(構成の工夫)、模擬授業
第5回	行書の指導法(表現の工夫)、模擬授業
第6回	草書の指導法(表現の工夫)、模擬授業
第7回	隷書の指導法(表現の工夫)、模擬授業
第8回	隷書の指導法(書風の多様性)、模擬授業
第9回	篆書の指導法(表現の工夫)、模擬授業
第10回	篆書の指導法(書風の多様性)、模擬授業
第11回	仮名の指導法(構成の工夫)、模擬授業
第12回	漢字仮名交じりの書の指導法(表現の工夫)、模擬授業
第13回	創作作品の指導法(制作と鑑賞)、模擬授業
第14回	まとめ、古典の鑑賞
第15回	到達度確認

授業計画コメント

受講生の状況に応じて変更する場合がある。

授業方法

講義・模擬授業を中心とする。
アクティブラーニングも適宜取り入れる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

模擬授業担当の際には、2週間前までに指導案を提出すること。(60分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	模擬授業、アクティブラーニング等
その他(備考欄を参照)	50 %	指導案、レポート等

成績評価コメント

意欲的な取り組みを重視する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

必要に応じてコメントする。

教科書

書の古典と理論,全国大学書道学会,光村図書,初版,2013,9784895286817

参考文献

高等学校学習指導要領,文部科学省,2009

高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道)編,文部科学省,2010

参考文献コメント

必要に応じてプリントを配布する。

履修上の注意

- ①1回目の授業に必ず出席すること。
- ②書道概論を履修済であることが望ましい。

その他

- ①遅刻・欠席をしないこと。
- ②授業中にスマートフォンの使用・飲食をしないこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910260101	科目ナンバリング	U910260101
講義名	英語科教育法 I (教職課程)		
副題	理念と実技の探究一		
英文科目名	Teaching Methods (the English Language) I		
担当者名	山本 昭夫		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 水曜日 5時限 中央-505		

授業概要

外国語教育に関する研究と実践から生まれた概念と理論の理解:英語学習を支援する立場に立つ人のために、英語に関する5W1Hを考えます。今までの英語学習を振り返り、日本の英語教育全般とそれを取り巻く社会環境を概観し、グループディスカッションなどを通して、それぞれの問いに対する道筋の立て方を探ります。また、並行して『英語授業ハンドブック中学校編』を元に、授業を運営する上で便利な実技の体得も行います。

到達目標

学習指導要領の理解、第二言語習得理論概論、ICT概論、日本の英語教育の俯瞰:日本の英語教育を取り巻く諸問題に対して、背景を十分に踏まえた上で、自分なりの見解をまとめ、他者に伝えられるようになる。授業運営に役立つ実技の体得を行う。

授業内容

実施回	内容
第1回	「英語を学ぶ理由」(1)(個人の意見と世論、第二言語習得理論)、Why do we learn English?に答える(1)、実技訓練(文型練習1)。
第2回	「英語を学ぶ理由」(2)(英語の歴史と英語教育史、ことばの学習)、Why do we learn English?に答える(2)、実技訓練(文型練習2)。
第3回	英語教育と英語科教育(1)(第二言語習得と外国語学習)、How can we learn English?に答える(1)、実技訓練(文型練習3)。
第4回	英語教育と英語科教育(2)(目的別英語学習と教育、教科としての英語)、How can we learn English?に答える(2)。実技訓練(Information gap)。
第5回	中学校学習指導要領と学校英文法、コミュニケーション、How can we learn English?に答える(3)、実技訓練(語句の提示1)。
第6回	高等学校学習指導要領と学校英文法、コミュニケーション、実技訓練(語句の提示2)、When should we start learning English?に答える(1)。
第7回	CEFRと日本の英語教育、ことばの教育、実技訓練(シャドーイング1)、When should we start learning English?に答える(2)。
第8回	「学ぶ・教える英語(Englishes)の種類」、What kind of English should we learn?に答える(1)、When should we start learning English?に答える(1)、実技訓練(ディクテーション)。
第9回	「誰が英語を教える?」(ネイティブ・スピーカー論)、自己研修、What kind of English should we learn?に答える(2)、実技訓練(音読1)。
第10回	「英語を学ぶ方」(暗記・繰り返し)、Where should we learn English?に答える(1)、実技訓練(音読2)。
第11回	「英語の指導法」(1)(文法訳読)、Where should we learn English?に答える(2)、実技訓練(リスニング)。
第12回	「英語の指導法」(2)(コミュニケーション英語)、実技訓練(リーディング)。
第13回	ICT概論、実技訓練(スピーキング)。
第14回	テスト概論、総括、実技訓練(ライティング)。
第15回	ふりかえり。

授業計画コメント

進度に従い、課題や授業内容は一部変更します。また、英語多読や学外で行われる英語教育の研究会に参加することを奨励します。

授業方法

グループ作業・議論と模擬授業を行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回の問いの答えや実技練習の準備をします。1週間で1時間以上費やしてください。研究会参加報告書や多読の読後報告は数多く提出することが望ましい。月に一度くらいのペースでレポート提出もあります。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	毎回
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	クラス参加(発表)、グループ作業
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

模擬授業:20%(授業案と実技) 平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):30%(出席、クラス参加、グループ作業) 課題と発表、クラス参加が評価のすべてです。その基礎になる出席はとても重要です。レポート:50%(問いに対する答え。学外の英語教育研究会参加の報告書も含める。英語多読報告。)

レポートは、量と質、平常点はクラス参加(発表)、グループ作業の量に加えて積極性を加味します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出後、コメント付与の上返却します。

教科書

高等学校新学習指導要領 全文と解説,「月刊高校教育」編集部,学事出版,第1,2018,9784761924799

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編(平成29年7月),文部科学省,開隆堂出版,第1,2018,9784304051692

英語授業ハンドブック 高校編,金谷憲編集代表,大修館書店,第1,2012,9784469041774

英語授業ハンドブック 中学校編,金谷憲編集代表,大修館書店,第1,2009,9784469041736

「育てる」教育から「育つ」教育へ—学校英文法から考える,しまお まほ 中島 平三,大修館書店,第1,2019,9784469246322

参考文献

テストが導く英語教育改革,根岸雅史,三省堂,第1,2017,978-4385363561

日本語の思考法:中公文庫,木下是雄,中央公論新社,第1,2009,9784122051249

検証 迷走する英語入試——スピーキング導入と民間委託:岩波ブックレット,南風原 朝和(編集),岩波書店,第1,2018,9784002709840

ことばの教育を問いなおす:ちくま新書,鳥飼 玖美子, 苅谷 夏子, 苅谷 剛彦,筑摩書房,第1,2019,9784480072740

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910260102	科目ナンバリング	U910260102
講義名	英語科教育法 I (教職課程)		
英文科目名	Teaching Methods (the English Language) I		
担当者名	高田 智子		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 金曜日 1時限 中央-505		

授業概要

中学校・高等学校学習指導要領外国語の目標および内容を理解し、学習指導要領・検定教科書・授業との関係を検討する。コミュニケーション能力という概念および第二言語習得の代表的な理論を理解し、理論的立場から授業実践の指導手順・指導方法を学ぶ。

到達目標

中・高等学校の学習指導要領外国語の目標と内容を理解する。
第二言語習得論の観点から授業を分析する。
5領域の指導方法について理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	英語教育の目的(情報機器及び教材の活用を含む)
第2回	第二言語習得論からの示唆
第3回	学習者論からの示唆
第4回	中学校学習指導要領:コミュニケーション能力の育成
第5回	中学校学習指導要領と検定教科書
第6回	小学校英語教育の展開
第7回	中学校英語教育の展開
第8回	高等学校英語教育の展開
第9回	リスニング指導理論と応用
第10回	リーディング指導理論と応用
第11回	スピーキング指導理論と応用
第12回	ライティング指導理論と応用
第13回	英語教育評価の理論と応用
第14回	期末試験
第15回	到達度確認

授業方法

講義およびグループワーク

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教科書の該当ページ・配布資料を読み、学んだ内容を確認する(30～60分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	60 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

中・高等学校の学習指導要領外国語の目標と内容を正しく理解している。
第二言語習得論の観点から授業を分析し、積極的に議論に参加している。
5領域の指導方法を理解している。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

期末試験については、最終回に答え合わせをします。
授業分析については、授業で行う議論の中でフィードバックします。

教科書

新しい時代の英語科教育法,木村松雄 編編,学文社,2019,978-4-7620-2861-8
中学校学習指導要領(平成29年告示)解説外国語編,文部科学省,開隆堂,2018,9784304051692

TOTAL ENGLISH 2 (文部科学省検定教科書), 矢田裕士・吉田研作 他, 学校図書
高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説外国語編, 文部科学省, 開隆堂, 2019, 4304051784

参考文献

英語教師のための第二言語習得論入門, 白井恭弘, 大修館, 2012
新学習指導要領の展開, 金子朝子・松浦伸和, 明治図書, 平成29年, 2017

履修上の注意

第1回の授業に必ず出席すること。

その他

学生として当然ですが、とくに教員志望者としては無遅刻・無欠席が前提です。やむをえず遅刻・欠席する場合はメールで連絡をしてください。介護実習や実習校の打合せ等のため欠席する場合は、所定の書式で事前に届け出てください。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910261101	科目ナンバリング	U910261101
講義名	英語科教育法Ⅱ（教職課程）		
副題	英語の学習と指導の実技演習Ⅰ		
英文科目名	Teaching Methods (the English Language) Ⅱ		
担当者名	山本 昭夫		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 水曜日 5時限 中央-505		

授業概要

教材研究、グループ活動、評価と測定、日本における英語教育の問題と課題

到達目標

外国語教育に関する研究と実践から生まれた概念と理論を学び、模擬体験する。

授業内容

実施回	内容
第1回	「英語を教える理由」(1)(個人の意見と世論、第二言語習得理論)、音読の目的
第2回	「英語を教える理由」(2)(英語の歴史と英語教育史、ことばの学習)、音読の効用
第3回	中学校学習指導要領と検定教科書分析(1)(教科書比較)、模擬授業・体験:音読(1)(スラッシュ・リーディング)
第4回	中学校学習指導要領と検定教科書分析(2)(文法とコミュニケーション英語)、模擬授業・体験:音読(2)(タイム・リーディング)
第5回	高等学校学習指導要領と教科書分析(1)(科目ごとの教科書)、模擬授業・体験:音読(3)(虫食い音読)
第6回	高等学校学習指導要領と教科書分析(2)(文法とコミュニケーション英語、4技能)、模擬授業・体験:音読(4)(リレー音読)
第7回	学習指導要領とCEFR、高大接続システム改革、模擬授業・体験:音読(5)(重ね読み)
第8回	英語授業とCEFR、外部テスト、模擬授業・体験:音読(6)(Read & Look up to Say)
第9回	英語授業とICT、模擬授業・体験:Q&A活動(teacher-students)
第10回	個別学習・自立的学習とICT、模擬授業・体験:Q&A活動(peer)
第11回	協同学習とアクティブ・ラーニング
第12回	協働学習とアクティブ・ラーニング
第13回	定期テストと実力テスト、大学入試
第14回	国際交流と文化体験、総括、英語学習・教育への疑問再考
第15回	ふりかえり

授業計画コメント

疑問再考と実技演習は、進度により内容の変更有。また、学外で行われる英語教育の研究会に参加することを奨励します。

授業方法

英語学習・教育への疑問再考を行い、実技訓練を行います。相互評価を取り入れ、グループディスカッションなども行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

英語学習・教育への疑問再考、実技訓練の準備。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	授業の振り返り、英語多読報告、英語教育雑誌報告、研究会参加報告、他
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	クラス参加(発表)、グループ作業・議論、模擬授業
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

模擬授業:20%(実技) 平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等):30%(出席、クラス参加、グループ作業) 課題や実技、ディスカッションでの発言が求められ、その基礎になる出席がとても重要です。レポート:50%(模擬授業案、問いについて自論を述べ、それを支持する参考文献をつける。学外の英語教育研究会参加の報告書も含める。) レポートは量と質、平常点は模擬授業やグループワークの積極性を加味する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出後、コメント付与の上返却します。

教科書

英語授業ハンドブック 高校編,金谷憲編集代表,大修館書店,第1,2012,9784469041774

英語授業ハンドブック 中学校編,金谷憲編集代表,大修館書店,第1,2009,9784469041736

高等学校新学習指導要領 全文と解説,「月刊高校教育」編集部,学事出版,第1,2018,9784761924799

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編,文部科学省,開隆館出版販売,第1,2018,9784304051692

「育てる」教育から「育つ」教育へー学校英文法から考える,しまお まほ 中島 平三,大修館書店,1,2019,9784469246322

参考文献

協同学習を取り入れた英語授業のすすめ(英語教育21世紀叢書):ひつじ英語教育ブックレット2,江利川 春雄編著,大修館書店,第1,2012,9784469245738

『学習英文法を見直したい』,大津 由紀雄編著,研究社,第1,2012, 9784327410803

『ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)から学ぶ英語教育』.キース・モロウ編集,和田 稔 他翻訳,キース・モロウ編集,和田 稔 他翻訳,研究社,第1,2013,9784327410834

『「日本人と英語」の社会学 ―なぜ英語教育論は誤解だらけなのか』,寺沢 拓敬,研究社,第1,2015,9784327378219

The Practice of English Language Teaching with DVD (5E) (Teacher References),Jeremy Harmer,Pearson Japan,5,2015,9781447980254

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910261102	科目ナンバリング	U910261102
講義名	英語科教育法Ⅱ（教職課程）		
英文科目名	Teaching Methods (the English Language) Ⅱ		
担当者名	高田 智子		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 金曜日 1時限 中央-505		

授業概要

文法はコミュニケーションを支えるものであるという学習指導要領の考え方にに基づき、form - meaning - use という言語の3つの側面から文法項目を導入・練習・活用する指導法を学ぶ。英語科教育法Iで学んだ第二言語習得論も踏まえ、文法項目を平易な英語で提示し、言語形式に習熟させるための練習を経て、コミュニケーション活動を通してそれを活用する授業展開を学び、模擬授業で実践する。

到達目標

form - meaning - use という言語の3つの側面から文法項目を導入・練習・活用する指導法を理解し、指導計画を立て、それを実践することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	言語の3つの側面:form - meaning - use
第2回	PPP (presentation - practice - production)の指導手順
第3回	コンテキストの中で新出文法事項を導入する(講義)
第4回	コンテキストの中で新出文法事項を導入する(演習)
第5回	不定詞の導入・練習・活用
第6回	接続詞 when の導入・練習・活用
第7回	受動態の導入・練習・活用
第8回	模擬授業(過去形)
第9回	模擬授業(動名詞)
第10回	模擬授業(不定詞)
第11回	模擬授業(過去進行形)
第12回	模擬授業(接続詞 if / because)
第13回	模擬授業(助動詞)
第14回	模擬授業(比較級・最上級)
第15回	総括

授業計画コメント

履修者数により授業計画を変更する場合があります。

授業方法

講義・グループワーク・プレゼンテーション

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事後に配布資料を読み、学んだ内容を確認する。
模擬授業の計画を作成し、練習する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	模擬授業の振り返り
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	50 %	模擬授業の指導案および発表

成績評価コメント

form - meaning - use という言語の3つの側面から文法項目を導入・練習・活用する指導を実践できる。
(細かい評価規準は授業で示します)
自分や他の学生の模擬授業を、コミュニケーションを支える文法の指導という観点から分析できる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

模擬授業については、評価規準にしたがってクラス全体でフィードバックを行ないます。
模擬授業振り返りレポートについては、最終回にフィードバックを行ないます。

教科書

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説外国語編,文部科学省,開隆堂,2018,9784304051692
TOTAL ENGLISH 2 (文部科学省検定教科書),矢田裕士・吉田研作 他,学校図書
高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説外国語編,文部科学省,開隆堂,2019,4304051784

参考文献

現代英文法講義,安藤貞雄,開拓社,2005,9784758910217
英文法のエッセンス,江藤裕之,大修館,2015
英文法の疑問一恥ずかしくてずっと聞けなかったこと,大津由紀雄,NHK出版,2005
A communicative grammar of English,Leech, G. & Svartvik, J.,Longman,3,2002
The grammar book: Form, meaning, and use for English language teachers,Larsen-Freeman, D. & Celce-Mursia, M.,Heinle & Heinle,3,2015

履修上の注意

第1回の授業に必ず出席すること。

その他

学生として当然ですが、とくに教員志望者としては無遅刻・無欠席が前提です。やむをえず遅刻・欠席する場合はメールで連絡をしてください。介護実習や実習校の打合せ等のため欠席する場合は、所定の書式で事前に届け出てください。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910262101	科目ナンバリング	U910262101
講義名	英語科教育法Ⅲ（教職課程）		
副題	実技実践演習と振り返り		
英文科目名	Teaching Methods (the English Language) Ⅲ		
担当者名	山本 昭夫		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 月曜日 5時限 中央-501		

授業概要

英語科教育法Ⅰ、Ⅱで培った外国語教育に関する研究と実践から生まれた概念と理論の理解を元に、授業を計画し実践体験を行い、振り返る。

到達目標

外国語教育に関する研究と実践から生まれた概念と理論の理解を踏まえた授業計画とその実践、振り返りができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	学習者信条と英語学習・指導
第2回	学力格差とICT
第3回	can-do list
第4回	言語の形式・意味・使用
第5回	SLAと授業、学習指導要領と授業
第6回	授業分析と模擬授業、授業評価(1)(中1教科書)
第7回	授業分析と模擬授業、授業評価(2)(中2教科書)
第8回	授業分析と模擬授業、授業評価(3)(高校教科書 英語コミュニケーション)
第9回	授業分析と模擬授業、授業評価(4)(高校教科書 論理・表現)
第10回	授業計画と模擬授業、授業評価(1)(中1教科書)
第11回	授業計画と模擬授業、授業評価(1)(中2教科書)
第12回	授業計画と模擬授業、授業評価(3)(高校教科書 英語コミュニケーション)
第13回	授業計画と模擬授業、授業評価(4)(高校教科書 論理・表現)
第14回	単元計画、授業と評価、総括
第15回	ふりかえり。

授業計画コメント

進度に従い、課題や授業内容は一部変更します。また、英語多読や学外で行われる英語教育の研究会に参加することを奨励します。

授業方法

グループ作業・議論と模擬授業を行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回の問いの答えや実技練習の準備をします。1週間で1時間以上費やしてください。研究会参加報告書や多読の読後報告は数多く提出することが望ましい。月に一度くらいのペースでレポート提出もあります。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	毎回
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	クラス参加(発表)、グループ作業
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

模擬授業:30%(授業案と実技) 平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):20%(出席、クラス参加、グループ作業) 課題と発表、クラス参加が評価のすべてです。その基礎になる出席はとても重要です。レポート:50%(問いに対する答え。学外の英語教育研究会参加の報告書も含める。英語多読報告。)

レポートは、量と質、平常点はクラス参加(発表)、グループ作業の量に加えて積極性を加味します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出後、コメント付与の上返却します。

教科書

- 高等学校新学習指導要領 全文と解説,「月刊高校教育」編集部,学事出版,第1,2018,9784761924799
中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編(平成29年7月),文部科学省,開隆堂出版,第1,2018,9784304051692
英語授業ハンドブック 高校編,金谷憲編集代表,大修館書店,第1,2012,9784469041774
英語授業ハンドブック 中学校編,金谷憲編集代表,大修館書店,第1,2009,9784469041736
「育てる」教育から「育つ」教育へ—学校英文法から考える,しまお まほ 中島 平三,大修館書店,第1,2019,9784469246322

参考文献

- テストが導く英語教育改革,根岸雅史,三省堂,第1,2017,978-4385363561
日本語の思考法:中公文庫,木下是雄,中央公論新社,第1,2009,9784122051249
検証 迷走する英語入試——スピーキング導入と民間委託 :岩波ブックレット,南風原 朝和(編集),岩波書店,第1,2018,9784002709840
ことばの教育を問いなおす:ちくま新書,鳥飼 玖美子, 荻谷 夏子, 荻谷 剛彦,筑摩書房,第1,2019,9784480072740
ツカむ! 話術:角川oneテーマ21,パトリック・ハーラン,角川書店,1,2014,9784041107065

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910263101	科目ナンバリング	U910263101
講義名	英語科教育法Ⅳ（教職課程）		
英文科目名	Teaching Methods (the English Language) Ⅳ		
担当者名	幡上 義弘		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 水曜日 1時限 西1-309		

授業概要

英語を教科として教えるという際の目的、内容、方法などをさまざまな角度から検討する。すべての根本にあるのは教育に対する教師の熱意であることは論を待たないが、目標設定の力と教え方の創意工夫で達成される成果は異なってくる。この授業では模擬授業をなるべく取り入れ、「学びとは何か」を教える立場で考えながら、内容を分析する視点を知り、達成目標の設定について知見を深める。この基本に立って、授業の目標を達成するための効果的な指導技術を学ぶことを目標としている。また、英語による授業方法に慣れ、指導案の作成方法を知ることがも目標である。

到達目標

中学・高校の教材を分析し、指導目標を設定する観点を知る。さまざまな指導技術を学び、指導に応用的に生かせるようになる。英語で授業を進行させることができるようになる。指導案を適切に作成できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション 英語科教育のしくみ(情報機器及び教材の活用を含む)
第2回	教材研究 (1) 検定教科書「活動」について「コミュニケーション」について
第3回	教材研究 (2) 教材分析 検定教科書の分析
第4回	指導案について 模擬授業に向けて 言語活動 Classroom English (1)
第5回	コミュニケーション活動の例(1) 指導案(1) Classroom English (2)
第6回	コミュニケーション活動の例(2) 指導案(2) 情報機器及び教材の活用
第7回	授業展開の方法(1) 模擬授業(1) 英語学
第8回	授業展開の方法(2) 模擬授業(2) 英語学
第9回	授業展開の方法(3) 模擬授業(3) 英米文学
第10回	授業展開の方法(4) 模擬授業(4) 英米文学
第11回	授業展開の方法(5) 模擬授業(5) 英語コミュニケーション
第12回	授業展開の方法(6) 模擬授業(6) 英語コミュニケーション
第13回	授業展開の方法(7) 模擬授業(7) 異文化理解
第14回	授業展開の方法(8) 模擬授業(8) 異文化理解
第15回	模擬授業予備日 総括

授業計画コメント

受講生の理解度により進度は変化する。和文、英文を問わず、大量の資料を読んでいくことになるので、授業の準備も含め積極的な取り組みが要求される。「授業」を欠席したり、遅刻すると「先生」と「生徒」に迷惑となるので、全授業欠席しないことを望む。

授業方法

個人の意見の発表、グループでの討論、デモンストレーション等を適宜取り入れ、演習形式の授業を行う。受講者全員の積極的な参加、活発な意見交換、研究発表を期待している。模擬授業をなるべく多く取り入れる予定。模擬授業では全員が教師役と生徒役に分かれて、中学校と高校の「授業」を経験する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎時間ミニレポートを課すが、そのまとめのプリントを読んでおくこと。模擬授業が予定されている場合は、その授業時間で「学ぶ」課を予習しておくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	模擬授業、デモンストレーション等

成績評価コメント

総合評価 (レポート、発表、デモンストレーションなど):100%(積極的な参加) 授業への積極的な参加、ミニエッセイ、発表内容、模擬授業、出席等の観点から総合的に評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎時間「授業分析」という形でミニレポートの提出を課す予定である。この「授業分析」の内容を元に、個々の指摘についてのコメントを後続の時間内に口頭で、もしくは「授業分析結果」というまとめの文書で発表する。

教科書

高等学校学習指導要領,開隆堂,初,2019,9784304051784

中学校学習指導要領,開隆堂,初,2018,9784304051692

教科書コメント

「中学校検定教科書」「高等学校検定教科書」 中学校の検定教科書一冊と、高校の検定教科書一冊の合計二冊を、受講生全員が共通に購入する(1000円程度)。

参考文献コメント

プリント、コピー等を必要に応じて配布する。参考文献等は適宜、授業で指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

「英語科教育法 I」の履修が完了していること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910270101	科目ナンバリング	U910270101
講義名	独語科教育法 I (教職課程)		
英文科目名	Teaching Methods (the German Language) I		
担当者名	高瀬 誠		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 月曜日 5時限 西1-109		

授業概要

ドイツ語の学習とそれに必要な事項について、学習者/教師の両側面の立場から考察していく。

到達目標

ドイツ語を習得するために必要な学習法とその実現について、自らの経験なども踏まえて考察し、教師として授業に反映させられるようにすると同時に、自らのドイツ語運用能力を一層高める。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンスと導入
第2回	学習の動機と目標設定について
第3回	教師に求める/られるもの
第4回	教材・教具について(情報機器及び教材の活用を含む)
第5回	成績・実力評価について
第6回	発音について
第7回	語彙と辞書について
第8回	文法について
第9回	トレーニング方法について(1) 読む
第10回	トレーニング方法について(2) 聞く
第11回	トレーニング方法について(3) 書く
第12回	トレーニング方法について(4) 話す
第13回	ドイツ語圏の現実 --- レアリア --- について
第14回	学習者の段階と学習法について
第15回	自主研究

授業計画コメント

参加者の人数・構成によっては、上記の予定を変更することもある。また、場合によっては模擬授業や教育実習報告会などを行うこともある。

授業方法

毎時間各テーマについて提起される問題に対し、参加者同士で議論し、より良いあり方を考えていく。また、参加者による模擬授業や発表をもとに、議論をすすめることもある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各時間の最初には小テストを予定しているが、授業以外でも参加者は自らのドイツ語運用能力の向上を目指してもらいたい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	20 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	80 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):80% 小テストの結果、授業時の発言、参加状態、発表内容などで総合的に評価する。欠席は減点対象とする。小テスト:20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テストは実施後答え合わせと確認
授業時の発表については参加者全員で検討

参考文献

中学校学習指導要領,文部科学省,2017

参考文献コメント

授業時に適宜指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

教育実習をするためにはこの授業を履修することになっているが、この授業を履修し、さらにその他の必要な条件を満たしていても、ドイツ語運用能力がある程度以上のレベルにない場合、教育実習は遠慮してもらう場合もある。 疑問点・不明点があれば遠慮無く質問して頂きたい(特にドイツ語に関する疑問・質問は歓迎)。質問があれば授業でも随時取り上げていき、疑問の解消を図りたい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910271101	科目ナンバリング	U910271101
講義名	独語科教育法Ⅱ（教職課程）		
英文科目名	Teaching Methods (the German Language) Ⅱ		
担当者名	高瀬 誠		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 月曜日 5時限 西1-109		

授業概要

ドイツ語学習のための授業に必要な事項を考察した後、実際に模擬授業を行いながらよりよい授業とは何かを考えていく。

到達目標

様々な授業形態に対応した授業計画を立案し、実行できるようにする。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンスと導入
第2回	各種教授法の特徴
第3回	母語話者と共同の授業について
第4回	教壇に立つという事は？
第5回	授業計画と教案について
第6回	模擬授業1(ドイツ語学・ドイツ語コミュニケーション・ドイツ文学・異文化理解)
第7回	模擬授業2(ドイツ語学・ドイツ語コミュニケーション・ドイツ文学・異文化理解)
第8回	模擬授業3(ドイツ語学)
第9回	模擬授業4(ドイツ語学)
第10回	模擬授業5(ドイツ語コミュニケーション)
第11回	模擬授業6(ドイツ語コミュニケーション)
第12回	模擬授業7(ドイツ文学)
第13回	模擬授業8(ドイツ文学)
第14回	模擬授業9(異文化理解)
第15回	模擬授業10(異文化理解)

授業計画コメント

第6回以降は模擬授業(実践・批評・議論と提案)を行なっていく。ただし、参加者の人数・構成などによっては、上記の予定を変更することもある。また、一人が複数回模擬授業行う場合もある。さらに教育実習を済ませた学生による報告会を行うこともある。

授業方法

授業の計画を立て、それに基づいた教案を作成し、模擬授業での実践。それをもとに参加者により批評・議論を行い、改善の余地があればそれを模索する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

参加者は授業以外でも自らのドイツ語運用能力の向上を目指してもらいたい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	20 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	80 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):80% 小テストの結果、授業時の発言、参加状態、発表内容などで総合的に評価する。欠席は減点対象とする。小テスト:20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テストは実施後答え合わせと確認
模擬授業など授業時の発表については参加者全員で検討

参考文献

中学校学習指導要領解説外国語編,文部科学省,開隆館出版,2008

高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編, 文部科学省, 開隆館出版, 2015

参考文献コメント

適宜授業時に指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

ドイツ語を教えるのに、ドイツ語運用能力は必要不可欠である。(特にドイツ語の文法事項などについて)疑問点・不明点があれば遠慮無く質問して頂きたい。質問があれば授業でも随時取り上げていき、疑問の解消を図りたい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910280101	科目ナンバリング	U910280101
講義名	仏語科教育法 I (教職課程)		
英文科目名	Teaching Methods (the French Language) I		
担当者名	荒川 久美子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 1時限 西1-203		

授業概要

発音の指導、および、履修者による初中級レベルのフランス語文法の模擬授業とそれに対する討論を中心に授業を進める。必要に応じてフランスおよびフランス語圏の文化の紹介を行う。

到達目標

発音を正確なものとし、初中級のフランス語文法を指導できる力をつけることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーションおよび学習指導要領の紹介と解説
第2回	発音(第1回)母音
第3回	発音(第2回)半母音と子音
第4回	発音と綴り字の関係
第5回	教材の選択と教案の立て方(文法の場合)
第6回	教材の分析と補助教材や機材の使用について
第7回	模擬授業(第1回)冠詞・疑問副詞と疑問形容詞
第8回	模擬授業(第2回)疑問代名詞
第9回	模擬授業(第3回)直説法複合過去
第10回	模擬授業(第4回)直説法半過去と直説法大過去
第11回	模擬授業(第5回)直説法単純未来と直説法前未来)
第12回	模擬授業(第6回)受動態
第13回	模擬授業(第7回)関係代名詞
第14回	まとめ
第15回	到達度確認

授業方法

履修者の模擬授業とそれに対する履修者間の討論と教員のコメントを中心に進める。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

模擬授業の実施者は担当項目についての知識を確かなものとし、教案を作成し、また他者に明確に伝えられるように準備すること。また他の履修者もコメントできるだけの知識をきちんとつけて授業にのぞむこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	模擬授業の内容

成績評価コメント

学期末試験では、次年度の教育実習に必要なだけのフランス語の能力を持っているかを確認する。平常点では、出席(遅刻の有無を含む)、および、他の履修者に対するコメントをチェックする。模擬授業では、フランス語の発音の正確さ、および文法説明の明瞭さを評価の対象とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

模擬授業について、教案を含め教室内でコメントする。

教科書コメント

教科書については必要に応じて指示する。

参考文献

高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編, 文部科学省, 開隆堂出版, 2011, 978-4-304-04164-8

参考文献コメント

他の参考文献については必要に応じて指示する。

その他

遅刻をしないようにすること。遅刻や欠席の場合は教員に連絡を入れること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910281101	科目ナンバリング	U910281101
講義名	仏語科教育法Ⅱ（教職課程）		
英文科目名	Teaching Methods (the French Language) Ⅱ		
担当者名	荒川 久美子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 1時限 中央-508		

授業概要

履修者によるフランス語の文法と購読の模擬授業とそれに対する討論を中心に授業を行う。必要に応じて発音の指導やフランスおよびフランス語圏の文化の紹介を行う。

到達目標

フランス語の文法および購読の指導できる力をつけることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	文法の模擬授業(第1回)現在分詞とジェロンディフ
第3回	文法の模擬授業(第2回)条件法
第4回	文法の模擬授業(第3回)接続法
第5回	文法の模擬授業(第4回)直接話法と間接話法
第6回	フランス語の文型
第7回	教案の立て方(購読の場合)
第8回	購読の模擬授業(第1回)発音指導と機材の使用を中心に
第9回	購読の模擬授業(第2回)資料の活用を中心に
第10回	購読の模擬授業(第3回)テキストを用いた文法の復習を中心に
第11回	購読の模擬授業(第4回)文型に則った直訳を中心に
第12回	購読の模擬授業(第5回)直訳から意識への指導を中心に
第13回	購読の模擬授業(第6回)テキストの理解度の確認方法を中心に
第14回	まとめ
第15回	到達度確認

授業方法

履修者の模擬授業とそれに対する履修者間の討論と教員のコメントを中心とする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

模擬授業の実施者は担当教材について事前によく学習し、教案を準備し、さらに明確に指導できるようにしておくこと。他の履修者もその教材についてよく予習をして討論やコメントできるようにしておくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	模擬授業の内容

成績評価コメント

学年末試験では、次年度の教育実習に必要なだけのフランス語の能力を持っているかを確認する。平常点では、出席(遅刻の有無を含む)、および、他の履修者に対するコメントをチェックする。模擬授業では、フランス語の発音の正確さ、および、文法や購読の授業の明瞭さを評価の対象とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

模擬授業と教案については教室内のコメントによってフィードバックする。

教科書コメント

教科書については必要に応じて指示する。

参考文献

高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編, 文部科学省, 開隆堂出版株式会社, 2011, 978-4-304-04164-8

参考文献コメント

他の参考文献については必要に応じて指示する。

その他

遅刻をしないようにすること。欠席や遅刻の場合は教員のメールアドレスに連絡を入れること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910290101	科目ナンバリング	U910290101
講義名	職業指導科教育法 I (教職課程)		
英文科目名	Teaching Methods (Vocational Guidance) I		
担当者名	永作 稔		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	集中(通年) その他 集中講義		

授業概要

職業指導は「個人が職業を選択し、その準備をし、就職し、進歩するのを援助する過程である」とされている。この授業では、まず職業指導とその関連概念の歴史の変遷について理解する。さらにこのような職業指導を具体的に教育活動のなかで実践するための指導の方法や技術、およびその評価の方法について学ぶ。また、その実践にあたって必要な理論や具体的事例、職業興味等の検査の実施と取り扱いについても講義や演習、さらに反転授業やグループワークなどのアクティブ・ラーニングの手法を用いて学習する。

到達目標

1. 職業指導の学校教育における位置づけとその歴史の変遷を理解し、説明できるようになる。
2. 職業指導に関連する諸理論について理解し、それを実践に活かす力を身につける
3. 職業指導の教材研究の方法について学び、授業案を作成できるようになる
4. 職業指導の模擬授業とそのふりかえりを通じて授業実践の力を身につける

授業内容

実施回	内容
第1回	職業指導とは何か: 歴史の変遷と学習指導要領における位置づけ
第2回	職業指導とキャリア教育
第3回	パーソンズの職業選択理論
第4回	ホランドの職業選択理論
第5回	職業興味と測定とキャリア発達
第6回	職業指導におけるICT等を活用した最新の評価ツールの紹介
第7回	職業指導の実践と評価1(アセスメントとフィードバック)
第8回	職業指導の実践と評価2(キャリアカウンセリング)
第9回	さまざまな職業選択理論の紹介(反転学習を用いて)
第10回	職業指導における教材研究
第11回	職業指導における指導案の作成
第12回	模擬授業とそのふりかえり1(生徒のレディネスに応じた指導法を中心に)
第13回	模擬授業とそのふりかえり2(教材研究を中心に)
第14回	理解度の確認
第15回	ふりかえりとまとめ

授業方法

講義とディスカッションを組み合わせた演習形式の授業と、反転授業やグループワークなどを取り入れたアクティブラーニング型の授業のどちらかで行います。特に後半の各論部分についてはアクティブラーニング型で展開します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業計画と授業進度を参考に、次回の授業内容についてテキストに基づき予習する(2時間)
授業内容をふりかえり、参考資料や自ら集めた資料を参照しながら整理し、まとめる(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	75 %	
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	15 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

期末レポート課題に加えて、毎回の授業で行うコメントペーパー(小テスト)と平常点を評価の対象とする。レポートや小テストに関しては授業内容について批判的な内容であっても構わない。自分の言葉で学んだことや感じたことについて論理的に説明できるかどうか重要なポイントである。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回のコメントペーパーについては次回授業で口頭でフィードバックを行う。またレポートについてはその採点結果をもってフィードバックとする。

教科書

中学校学習指導要領解説総則編,文部科学省,ぎょうせい,2016

高等学校学習要領解説総則編,文部科学省,東山書房,2009

新時代のキャリアコンサルティング,労働政策研究・研修機構(編),労働政策研究・研修機構,2016,978-4-538-41159-0

教科書コメント

教科書は適宜こちらから提示しますので、購入の必要はありません。

参考文献コメント

職業相談場面におけるキャリア理論及びカウンセリング理論の活用・普及に関する文献調査
JILPT <http://www.jil.go.jp/institute/siryo/2016/165.html>

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910292101	科目ナンバリング	U910292101
講義名	職業指導科教育法Ⅲ（教職課程）		
副題	教科「職業指導」（職業指導の技術）の授業をつくる		
英文科目名	Teaching Methods (Vocational Guidance) Ⅲ		
担当者名	宮盛 邦友		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 4時限 中央-507		

授業概要

職業指導科教育法Ⅰをふまえた上で、職業指導科教育法Ⅲの授業では、「職業指導の技術」の教育法について、学習指導案と模擬授業を通して、学び合っていく。また、職業指導の技術と技術教育・進路指導の関係についても深めていきたい。

到達目標

- ①職業指導（職業指導の技術）の授業の方法と内容を理解する。
- ②職業指導（職業指導の技術）の学習指導案が書けるようになる。
- ③職業指導（職業指導の技術）の模擬授業ができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	本授業全体の説明
第2回	学習指導要領①（総則を中心にして）
第3回	学習指導要領②（職業指導の技術と技術教育・進路指導を中心にして）
第4回	学習指導案①（作成の仕方を中心にして）
第5回	学習指導案②（作成の実施を中心にして）
第6回	これまでの理解度の確認（情報機器及び教材の活用を含む）
第7回	模擬授業①（心理調査（数量）を中心にして）
第8回	模擬授業②（心理調査（質）を中心にして）
第9回	模擬授業③（社会調査（質）を中心にして）
第10回	模擬授業④（社会調査（数量）を中心にして）
第11回	模擬授業⑤（統計（数量・質）を中心にして）
第12回	模擬授業⑥（発達心理を中心にして）
第13回	模擬授業⑦（人格心理を中心にして）
第14回	模擬授業⑧（臨床心理を中心にして）
第15回	本授業全体のふりかえり

授業方法

授業のすすめ方は学生の発表を基本とする。積極的に発言するなど、主体的に授業に参加することが望まれる。

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

テキストの指定されている箇所を、必ず、読んできてほしい。そして、疑問をもって授業にのぞんでほしい。（約1時間程度）

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験（第1学期）		
学年末試験（第2学期）		
中間テスト		
レポート	20 %	1回
小テスト		
平常点（出席、クラス参加、グループ作業の成果等）	30 %	数回
その他（備考欄を参照）	50 %	各1回（学習指導案・模擬授業）

成績評価コメント

上記に基づいて、総合的に評価する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

毎回の授業において、学生からの疑問・質問に対して、教員がコメントをする。

教科書

エリクソンの人生（上・下），ローレンス・J・フリードマン，新曜社，2003

18歳の今を生きぬく，乾彰夫編，青木書店，2006

高卒5年どう生き、これからどう生きるのか，乾彰夫編，大月書店，2013

危機のなかの若者たち,乾彰夫・本田由紀・中村高康編,東京大学出版会,2017

参考文献

中学校学習指導要領解説総則編,文部科学省,東山書房,2018

高等学校学習指導要領解説総則編,文部科学省,東洋館出版社,2019

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910300101	科目ナンバリング	U910300101
講義名	理科教育法 I (教職課程)		
英文科目名	Teaching Methods in the Natural Sciences I		
担当者名	殿村 洋文		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 土曜日 2時限 南1-106		

授業概要

理科教育の歴史を振り返り、今日におけるその目的を考える。次いで学習指導要領やその解説に記された、中学校、高等学校の理科の内容と、背景となる学問との関係学ぶ。さらに教育評価の方法の概要と評価の観点の学び、理科の学習の評価について知る。これを踏まえて単元の指導計画や各時間の学習指導案の作り方を学び、中学校あるいは高校の基礎のつく科目の学習指導案を作成する。その際、主体的・対話的で深い学びが実現するよう配慮する。模擬授業を行い、事後その検討を、使用した教材・教具、教授行為等から検討、議論を行う。

到達目標

理科教育の目標を歴史的に学び、その目的並びにそれを達成するための科学的に探究する技能、能力、態度の育成について学ぶことをテーマとする。

到達目標は次のとおりである。(1)理科学習の目標を学習指導要領におけるものも含め、歴史的な観点を加味して説明できる。(2)学習指導要領の中学理科の第1分野、第2分野の内容及び高校理科の各科目と自然科学の成果との関連を説明できる。(3)理科の授業での評価の目的と方法及び評価の観点が説明できる。(4)中学理科の各分野及び高校の基礎のつく科目の教材、情報機器等を活用し、具体的な学習指導案を作成できる。(5)作成した学習指導案を基に模擬授業ができる。(6)実施した授業の検討・分析ができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	理科教育の歴史と現状
第2回	学習指導要領ならびに関連法規や背景となる学問領域から見る理科教育
第3回	教材研究(1)中学校「身近な物理現象」、「身の回りの物質」について
第4回	教材研究(2)中学校「化学変化と原子・分子」と高等学校化学基礎「物質の構成」について
第5回	教材研究(3)高等学校化学基礎「物質の変化」について
第6回	教材研究(4)高等学校物理基礎「物体の運動とエネルギー」について
第7回	情報機器および教材、教具の活用—プロジェクター、電子黒板、コンピューター計測と伝統的実験器具—
第8回	教材研究(5)中学校「生物の体のつくりと働き」と高等学校生物基礎「生物と遺伝子」について
第9回	教材研究(6)中学校「大地の変化と成り立ち」と高等学校地学基礎「変動する地球」について
第10回	理科における単元の指導計画と各時間の学習指導案の立案の方法及びその作成と検討
第11回	評価の目的、方法、観点—理科と他科目の共通点と相違点—
第12回	模擬授業(1)とその事後検討—教材研究(1)～(3)より—
第13回	模擬授業(2)とその事後検討—教材研究(4)より—
第14回	模擬授業(3)とその事後検討—教材研究(5)～(6)より—
第15回	学習のまとめ—理科教員の研修とは—

授業計画コメント

授業内容は予定。講義の進行に伴い、順序や内容の変更を、受講者と相談の上変更する可能性がある。

授業方法

教員より課題を出し、それを学生の皆さん一人ひとりに考えてもらい、発表し討論することを基本とする。内容によってはグループワーク、実験や実習、あるいは工作なども行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業にあたり、教科書の該当箇所や疑問点などをまとめておくこと(2時間)

配布資料を読み疑問点、不明な点などをまとめておくこと(2時間)

教材研究や指導案作成の場合は、中学、高校時代の教科書や参考書の該当分野を見て、当時の授業方法や理解が難しかったことをまとめておくこと(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	学習指導案の作成、実験や教具作成
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	講義・実験・実習のまとめや、模擬授業の様子並びに事後の検討の報告

その他(備考欄を参照)

成績評価コメント

学習指導案は標準的な形式に従い、誰もがそれを見て授業ができるように作成されていること重要である。授業内の平常点は講義・実験・実習で何が分り、新たに生じた疑問等が書かれていることが求められる。模擬授業とその検討では、模擬授業の良い点・改善すべき点が具体的に指摘されているかが必要である。小レポートの場合は求められた内容が漏れなく確実に書かれてなければならない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

後日コメント等を入れ返却。レポートの内容等は、授業通信の一部に取り入れ配布する。

教科書

【新訂】授業に活かす! 理科教育法 中学校・高等学校編,左巻健男,吉田安規良 編著,東京書籍,2019,978-4-487-81244-8

参考文献

学び合い高め合う中学理科の授業1年～3年,岩崎敬道他,大月書店,2012,978-4-487-81244-8

中学校学習指導要領,文部科学省,2017

中学校学習指導要領解説 理科編,文部科学省,2017

中学校学習指導要領解説 理科編,文部科学省,2018

高等学校学習指導要領解説 理科編,文部科学省,2018

参考文献コメント

その他,授業時に適宜示す。

その他

各自の小学校,中学校,高等学校における理科の授業について,記憶を呼び戻しておくことが望ましい。第1回講義で以上について質問して内容を取り上げる。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910301101	科目ナンバリング	U910301101
講義名	理科教育法Ⅱ（教職課程）		
英文科目名	Teaching Methods in the Natural Sciences Ⅱ		
担当者名	殿村 洋文		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 土曜日 2時限 南1-106		

授業概要

諸外国の理科教育について知り、日本の理科教育の目的や意義をより深く知る。学習指導要領やその解説にある、高校理科の各科目や中学理科の内容が教科書にどう展開されているかを見て、中学理科と高校理科の関連と、それらが発展した自然科学諸分野との関係を学ぶ。これを踏まえ、高校理科各分野の教材研究を行い、年間指導計画や1時間の学習指導案をどう作るか考えるとともに、評価の観点や評価方法を、テストのような総括的評価のみならず、授業における討論、実験等の評価についても学ぶ、併せて授業に必要な教具の使用や作成、それらと施設設備の管理についても知る。授業指導案を作成し、模擬授業を行い、事後に主体的・対話的で深い学びが行われたか等についての検討を集団で行い、指導案の改善の仕方も学ぶ。

到達目標

理科教育の目標を諸外国と比較しながら学び、持続可能な社会の担い手として、事物・現象を科学的に探究する、日本の実情に相応しい授業をどう作るかを、中学理科・高校の各科目の内容を中心に学ぶことをテーマとする。

到達目標は次のとおりである。(1)学習指導要領における理科の目標を諸外国と比較して説明できる。(2)学習指導要領の高校理科の各科目と中学理科の内容の関連を説明できる。(3)中学や高校理科の内容がどんな自然科学分野に発展するか知る。(4)理科の授業での討論やグループワーク、実験の評価方法や観点を説明できる。(5)高校理科各科目およびその基礎となる中学理科の分野の教材等を活用し、具体的な学習指導案を作成できる。(6)作成した学習指導案を基に模擬授業ができる。(7)行った授業の検討や分析および改善が集団的にできる。

授業内容

実施回	内容
第1回	諸外国の理科教育
第2回	理科教育と教科書、中学理科と高校理科の内容の関連と、及びその発展としての自然科学諸分野の関係
第3回	教材研究(1) 高校物理基礎「様々な物理現象とエネルギーの活用の熱、波」、物理「波」 —温度センサーの活用とウェーブマシンの使用方法ならびにその自作—
第4回	教材研究(2) 高校物理「様々な運動」—対数グラフの活用による運動エネルギー導入、ケプラーの法則の実証、距離センサー、力センサーの活用や同時落下装置の作成—
第5回	教材研究(3) 高校物理基礎「電気」、物理「電気と磁気」 —電圧計、電流計、オスロスコープの活用と教具や測定補助器具の自作、実験器具等の管理—
第6回	教材研究(4) 高校化学基礎「物質と化学反応式」「酸と塩基」高校化学「無機物質の性質」 —化学反応式の検証実験、ガラス器具の管理、有機化合物の共通性—
第7回	教材研究(5) 高校化学基礎「酸化と還元」、高校化学「化学反応とエネルギー」「有機化合物の性質」 —GPSの活用した地球の大きさの測定、望遠鏡を用いた太陽観測の実際—
第8回	教材研究(6) 高校地学基礎「宇宙における地球」「変動する地球」 —太陽系天体の分類、地球カレンダーの作成、深発地震モデルの自作—
第9回	1時間の授業と年間指導計画の関係
第10回	授業における討論の組織、実験指針の作成方法、ならびに討論や実験技術の評価
第11回	年間指導計画と1時間の授業の立案と授業指導案の作成・検討
第12回	模擬授業(1)とその事後検討及び授業案の改善—教材研究(1)～(3)より—
第13回	模擬授業(2)とその事後検討及び授業案の改善—教材研究(4)～(6)より—
第14回	模擬授業(3)とその事後検討及び授業案の改善—教材研究(4)～(6)より—
第15回	学習のまとめ—これからの理科教育—

授業計画コメント

授業内容は予定。講義の進行に伴い、順序や内容の変更を、皆さんと相談の上変更する可能性がある。

授業方法

教員より課題を出し、それを学生の皆さん一人ひとりに考えてもらい、発表し討論することを基本とする。内容によってはグループワーク、実験や実習、あるいは工作なども行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

後日コメント等を入れて返却。一部は授業通信の内容として配布する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	学習指導案の作成, 実験や教具作成
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	講義・実験・実習のまとめや, 模擬授業の様子並びに事後の検討の報告
その他(備考欄を参照)	30 %	毎時間ごとの小レポート

成績評価コメント

学習指導案は標準的な形式に従い, 誰もがそれを見て授業ができるように作成されていること重要である。授業内の平常点は講義・実験・実習で何が分り, 新たに生じた疑問等が書かれていることが求められる。模擬授業とその検討では, 模擬授業の良い点・改善すべき点が具体的に指摘されているかが必要である。小レポートの場合は求められた内容が漏れなく確実に書かれてなければならない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

後日コメント等を入れ返却。レポートの内容等は, 授業通信の一部に取り入れ配布する。

教科書

【新訂】授業に活かす! 理科教育法 中学校・高等学校編, 左巻健男, 吉田安規良 編著, 東京書籍, 2019, 978-4-487-81244-8

参考文献

学び合い高め合う中学理科の授業1年～3年, 岩崎敬道他, 大月書店, 2012, 978-4-487-81244-8

中学校学習指導要領, 文部科学省, 2017

中学校学習指導要領解説 理科編, 文部科学省, 2017

中学校学習指導要領解説 理科編, 文部科学省, 2018

高等学校学習指導要領解説 理科編, 文部科学省, 2018

その他

各自の小学校, 中学校, 高等学校における理科の授業について, 記憶を呼び戻しておくことが望ましい。第1回講義で以上について質問して内容を取り上げる。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910302101	科目ナンバリング	U910302101
講義名	理科教育法Ⅲ（教職課程）		
英文科目名	Teaching Methods in the Natural Sciences Ⅲ		
担当者名	井上 正之		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	集中(通年) その他 集中講義		

授業概要

4日間の集中講義。講義、実験実習および模擬授業を通して、中等理科教育(化学分野)の指導を行うために必要な知識と技術とを習得し、中等教育現場での授業に対応できるようにする。

到達目標

中等理科教育(化学分野)における学習指導要領の内容を理解し、指導上の留意点、学術的背景、評価法を理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	<ガイダンス, 実験室における事故と安全>本授業の概要を説明した後, 中学校・高等学校の実験室における事故とその原因について解説する。実験室における事故の化学的な原因を把握することで, 安全な生徒実験の指導と実験室の管理をできるようにする。
第2回	<学習指導要領の変遷と化学教育>学習指導要領の変遷と社会的背景, および高等学校理科の学習指導要領の変遷に伴う「化学」と「理科総合科目」の内容の変化について解説する。理科教育の担う社会的な意義について考察できるようにする。
第3回	<粒子性・物質質量>学習指導要領(理科・化学分野)のキーワードは「粒子」である。中学校理科で物質の粒子性を納得させるための授業展開例を紹介し, 化学基礎の「難所」である物質質量の指導のポイントを解説する。見えない粒子をモデル化するための工夫を考えることができるようにする。
第4回	<無機化学実験1>濃硫酸などの危険な試薬を扱う無機化学実験を安全に行うための新規な方法を, 実際に実験を行うことで会得する。新規な実験教材を開発するための問題点の発見と, 問題点を解決するためのコンセプトを習得できるようにする。
第5回	<無機化学実験2>金属イオンの定性分析を題材に, セルプレートおよびろ紙を用いるマイクロスケール実験を行う。グリーンケミストリーの概念に基づくマイクロスケール実験の意義と方法を習得できるようにする。
第6回	<「酸と塩基」および「酸化と還元」>中学校「理科」から高等学校「化学基礎」までを通して学習される「酸と塩基」および「酸化と還元」について, その定義と学習展開について解説する。曖昧にされている定義や用語の意味を確認し, 論理的な授業ができるようにする。
第7回	<高等学校「化学」における物理化学分野>気体の状態方程式, 溶液の束一的性質, 平衡などの高等学校「化学」で学習する物理化学分野を, エネルギーの観点から振り返る。該当する教科書の発展的内容に対応できるようにする。
第8回	<学習評価といわゆる「アクティブラーニング」>観点別評価と, ルーブリックなどを用いる絶対評価について解説する。またジグソー法や反転授業などの, いわゆる「アクティブラーニング」の実例を解説する。絶対評価の方法および生徒による主体的な学習の手法を身につけられるようにする。
第9回	<有機化学実験1>安全で簡単に行うことができるマイクロスケール有機化学実験を行う。有機化学分野における新規な実験教材開発のコンセプトを理解できるようにする。
第10回	<有機化学実験2>医薬品, 油脂など人間生活に密着した素材を扱う有機化学実験を行う。家庭科や美術などの教科横断を視野に入れた実験教材のコンセプトを理解できるようにする。
第11回	<電気陰性度, HSAB則と金属イオンの反応>電気陰性度, HSAB則などの理論を通して, 高等学校の無機化学分野で学習する内容を体系的に理解できるようにする。
第12回	<有機化合物の異性体, 基本反応と教科書との対応>有機化合物の異性体の考え方と教授法について解説する。また有機化学の基本4反応と教科書に掲載されている反応の対応を解説する。高等学校「化学」の有機化学分野において, 暗記のみに依存しない理論的な学習を支援する授業ができるようにする。
第13回	<模擬授業の設計と指導案の作製>第14, 15回に行う模擬授業に向けて, 指導案と授業資料および評価資料の作製を行う。実際の授業を想定した学習指導案と評価案を作製できるようにする。
第14回	<模擬授業1>グループ毎に20分程度のパワーポイントを用いる模擬授業を行う。またルーブリックによる評価の実践を行う。模擬授業と評価を通じて, 授業改善の視点を身につけられるようにする。
第15回	<模擬授業2>グループ毎に20分程度のパワーポイントを用いる模擬授業を行う。またルーブリックによる評価の実践を行う。模擬授業と評価を通じて, 授業改善の視点を身につけられるようにする。

授業計画コメント

第14, 15回の授業ではパワーポイントを使う模擬授業を行うので, パワーポイントが使えるPCを用意して下さい。プロジェクターへの接続はケーブルで行います。

授業方法

講義形式, 実験実習, グループワーク

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

第1日目に資料をすべて配布するので, 2日目以降の授業については, 資料を読んで各回につき30分程度の予習を行う。また, 授業

終了後には各回について30分程度の復習を行う。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	実験の内容に関する課題レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	各授業(講義)の終わりに書くエッセイ
その他(備考欄を参照)	40 %	提出物(ルーブリック)と模擬授業の評価

成績評価コメント

実験レポート: 実験の内容に対する課題に正しく答えられているか, また適切な考察が記されているか。

エッセイ: 各講義の内容について考察されているか。

ルーブリック: 自分の模擬授業を評価してもらうためのもの。ルーブリックの形式が正しく踏襲されているか。評価規準は適切か。

模擬授業の評価: 各班の模擬授業を, ルーブリックに沿って相互に評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

適宜, メールによる問い合わせに応じる。

教科書コメント

学習指導要領解説(中学校理科, 高等学校理科)を指定します。化学の内容に該当する部分を通読して, 授業に臨んで下さい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910303101	科目ナンバリング	U910303101
講義名	理科教育法Ⅳ（教職課程）		
英文科目名	Teaching Methods in the Natural Sciences Ⅳ		
担当者名	新井 直志		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 土曜日 2時限 西1-103		

授業概要

意見交換や討論を通して、有効な学習指導方法を見いだしたり、学習指導計画に基づいた模擬授業を通して、授業のあり方などを考え直したりする。

到達目標

「主体的・対話的で深い学び」を実現するために必要な学習指導法や教材などについて理解し、授業計画を行い、効果的な指導技術を身に付ける。

授業内容

実施回	内容
第1回	「良い授業とは何か」 教師として必要なことは何か。
第2回	「理科は何を教える」 生徒が学ぶこと、教師が指導すべきこと。
第3回	「理科の目標」 今、社会で求められていることは何か。
第4回	「教材研究の意味」 何を教える・学ばせる、何で教える。
第5回	「主体的な学び」 学ぶ意欲を喚起する方法を考える。
第6回	「対話的な学び」 話し合いによって何を学ぶ。
第7回	「深い学び」 学習の広がりと深まり。
第8回	「分かる授業」 わかることとわからないことを分ける。
第9回	「理科の見方・考え方」 見方や考え方を働かせるとは。
第10回	「効果的な教材提示の仕方」 何をみせ、何を考えさせるか。(情報機器及び教材の活用法)
第11回	「質問と発問」 授業の組み立て方を考える。
第12回	「学習指導案の役割」 授業設計の仕方を学ぶ。
第13回	「教えること」と「学ぶこと」、「知っていること」の違い
第14回	「学習指導者の役割」 教師の役割を考える。生徒に何を学ばせるか。
第15回	「理科教師が学習指導において重視すべきこと」 授業者として忘れてはならないこと

授業計画コメント

授業参加者の学習状況によっては、授業内容の順番を入れ替えたり、修正したりすることもある。

授業方法

講義、話し合い、学習指導案の作成、模擬授業、相互評価

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

課題について、次の講義までに準備する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	課題の提出
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	出席、話し合い、グループ作業
その他(備考欄を参照)	40 %	模擬授業

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートについては、次の講義において、口頭で評価・指導を行う。必要に応じてレポートに加筆して返却を行う。

教科書

中学校学習指導要領解説 理科編,文部科学省

高等学校学習指導要領解説 理科編,文部科学省

履修上の注意

理由のない欠席、遅刻は好ましくない。出席日数が不足する場合は単位不認定となる。

その他

グループでの話し合い、討論を中心に授業を進めていきます。積極的な参加、発言を期待します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910310101	科目ナンバリング	U910310101
講義名	数学科教育法 I (教職課程)		
副題	学ぶ側と教える側から授業を考える		
英文科目名	Teaching Methods in Mathematics I		
担当者名	高城 彰吾		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 水曜日 5時限 西1-310		

授業概要

学ぶ立場と教える立場の双方から授業を捉える視点を身につけ、主に中学校での数学の授業の内容と方法を検討する枠組みを論ずる。講義とともに、学生の発表による演習を軸として進める。その中では公正な研究活動の基本として、資料の引用の方法についても学ぶ。

到達目標

中学校高等学校における教科数学の授業について、各科目の内容を把握し、数学的活動をふまえた授業構成を考えることができるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス この授業の問題意識を理解する(必ず出席のこと)
第2回	学習指導要領と数学的活動について
第3回	授業とは・その構成要素
第4回	授業とは・教材とICT機器の活用について
第5回	模擬授業・発表演習と意見交換(1)基本的スキル
第6回	模擬授業・発表演習と意見交換(2)感じた興味をもとに
第7回	模擬授業・発表演習と意見交換(3)双方の立場を意識して
第8回	前半のふりかえりと補足
第9回	模擬授業・発表演習と意見交換(4)伝え気づく発問
第10回	模擬授業・発表演習と意見交換(5)内容・関係をより深く
第11回	模擬授業・発表演習と意見交換(6)まとめ
第12回	学習指導案(1)読み方
第13回	学習指導案(2)作成と実践
第14回	学習指導要領の変遷
第15回	定期試験

授業計画コメント

以上は、進行状況により変更もありうる。授業を行う際に必要な知識・考え方を論じる中で、実際面での生徒個々に応じた発問の工夫にもふれたい。教師には、自分が生徒として学習したときよりも授業内容・方法についての多面的な理解と、生徒の立場での受けとめ方への配慮の双方が求められる。今現在受けている専門数学の授業での経験の活かし方も考えていく。

授業方法

発表形式を中心に講義も交える。意見交換では学生の積極的な参加・発言を基に、よりよい授業をともに考えたい。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

割り当てられた発表の準備と事後レポート作成。
発表は内容についての質問を想定して準備すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	45 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	25 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):25%(出席、他の人の発表への参加) 発表およびレポート:45%(発表演習のまとめレポートその他) 第1学期(学期末試験):30%(授業の内容と習得事項の確認) レポート、発表および他の人の発表への参加を重視する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内の発表において、都度コメントを行う。

教科書

中学校学習指導要領解説数学編,文部科学省,日本文教出版,2018

教科書コメント

他、教室にて指示。

参考文献

高等学校学習指導要領解説数学編理数編,文部科学省,2019

参考文献コメント

適宜紹介する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

この授業の履修者は今年度後期の数学科教育法において同じ担当者の授業を履修すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910311101	科目ナンバリング	U910311101
講義名	数学科教育法Ⅱ（教職課程）		
副題	より効果的な学習指導をめざして		
英文科目名	Teaching Methods in Mathematics Ⅱ		
担当者名	高城 彰吾		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 水曜日 5時限 西1-310		

授業概要

学ぶ立場と教える立場の双方から授業を捉える視点を活用し、主として高等学校での教材を通して数学の授業でのより効果的な学習指導に求められる考え方、知識を論ずる。これまでの経験を活かすための基本的な態度について学び合う場とする。公正な研究活動の基本として、資料の引用の方法についても学ぶ。

到達目標

中学校高等学校における教科数学の授業について、学習内容について理解を深める方法を身につけたうえで、生徒の実態に即して、よりよい授業構成を教員が自ら考えるための方策を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス・もう一度この授業の問題意識を理解する(必ず出席のこと)
第2回	グループ発表の要領・教材研究・情報機器について
第3回	グループ発表と意見交換(1) 第1グループ(数と式)流れをつくる発問
第4回	グループ発表と意見交換(2) 第2グループ(2次関数)作業を取り入れて
第5回	グループ発表と意見交換(3) 第3グループ(三角関数)
第6回	グループ発表と意見交換(4) 第4グループ(データの分析)
第7回	前半のふりかえりと補足
第8回	グループ発表と意見交換(5) 第5グループ(図形と方程式)
第9回	グループ発表と意見交換(6) 第6グループ(指数・対数関数)
第10回	グループ発表と意見交換(7) 第7グループ(数学A・B)
第11回	数学的活動(1)活動ありきではなく
第12回	数学的活動(2)外的および内的活動
第13回	発展的な内容(1)中高・多学年にわたる話題
第14回	発展的な内容(2)その先の数学へ(つねに学習者として)
第15回	定期試験

授業計画コメント

以上は、進行状況により変更もありうる。授業を行う際に必要な知識・考え方を論じる中で、実際面での生徒個々に応じた発問の工夫にもふれたい。教師には、自分が生徒として学習したときよりも授業内容・方法についての多面的な理解が求められる。その多面性に気付くことは現在学んでいる専門数学の理解にも有益と考えられる一方、専門数学の中に見られる授業のヒントにも注目したい。

授業方法

発表形式を中心に講義も交える。教材研究・模擬授業と意見交換では学生の積極的な参加・発言を基に、よりよい授業をともに考えたい。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

割り当てられた発表の準備と事後レポート作成。
発表は内容についての質問を想定して準備すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート	45 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	25 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):25%(出席、他の人の発表への参加) 発表および提出レポート3件:45%(担当単元に関する発表(模擬授業を含む)とそのまとめレポートおよび教科内容・関連事項についての知識・発想・気づきに関するレポート2件) 第2学期(学年末試験):30%(授業の内容と習得事項の確認) レポート、発表内容および他の人の発表への参加を重視する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内の発表において、都度コメントを行う。

教科書

高等学校学習指導要領解説数学編・理数編,文部科学省,2019

教科書コメント

教室にて指示。

参考文献

中学校学習指導要領解説数学編,文部科学省,日本文教出版,2018

参考文献コメント

適宜紹介する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

この授業は今年度前期に同じ担当者の数学科教育法 I を履修した学生を対象とする。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910312101	科目ナンバリング	U910312101
講義名	数学科教育法Ⅲ（教職課程）		
英文科目名	Teaching Methods in Mathematics Ⅲ		
担当者名	山本 泰嗣		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 5時限 西1-203		

授業概要

模擬授業を通して、コンピューターを活用した数学の授業を展開するためのポイントを学ぶ。

到達目標

数学の授業(主に代数分野)にどのようにコンピューターを活用すればよいかを学ぶ。

授業内容

実施回	内容
第1回	数学の授業におけるコンピューター活用の意義
第2回	代数分野におけるコンピューター活用(1)どの場面に導入するか
第3回	代数分野におけるコンピューター活用(2)どのように展開するか
第4回	代数分野におけるコンピューター活用(3)何が変わるのか
第5回	代数分野におけるコンピューター活用 総括
第6回	コンピューターを活用した数学の授業実践に向けて 意見交換
第7回	模擬授業の準備(1) 課題研究と分析
第8回	模擬授業の準備(2) 指導案作成
第9回	模擬授業実践1 (1班から3班)意見交換, 振り返り
第10回	模擬授業実践1 (4班から6班)意見交換, 振り返り
第11回	模擬授業実践1 (7班から9班)意見交換, 振り返り
第12回	模擬授業実践2にむけて 総括と意見交換
第13回	模擬授業実践2 (1班から3班)意見交換, 振り返り
第14回	模擬授業実践2 (4班から6班)意見交換, 振り返り
第15回	模擬授業実践2 (7班から9班)意見交換, 振り返り

授業計画コメント

選択者人数によって、講義計画を変更することがある。

授業方法

講義と実習(班ごと)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

講義中の課題について約2時間程度を要する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	25 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	25 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	模擬授業実践

成績評価コメント

模擬授業の計画と実践に、どれだけ積極的に関わったかを自己評価・他者評価を行い、評価に含める。
課題は期限までに提出すること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

講義中やオフィスアワーで対応する。

教科書コメント

講義中に適宜配布する。

参考文献コメント

中学校学習指導要領, 高等学校学習指導要領を自由に閲覧できるようにしておく。(Webや電子媒体でも構わない)

履修上の注意

学習院内のコンピューターが自由に使えること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910313101	科目ナンバリング	U910313101
講義名	数学科教育法Ⅳ（教職課程）		
英文科目名	Teaching Methods in Mathematics Ⅳ		
担当者名	山本 泰嗣		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 水曜日 5時限 西1-203		

授業概要

模擬授業を通して、コンピューターを活用した数学の授業を展開するためのポイントを学ぶ。

到達目標

数学の授業(主に図形分野)にどのようにコンピューターを活用すればよいかを学ぶ。

授業内容

実施回	内容
第1回	数学の授業におけるコンピューター活用の意義
第2回	図形分野におけるコンピューター活用(1)どの場面に導入するか
第3回	図形分野におけるコンピューター活用(2)どのように展開するか
第4回	図形分野におけるコンピューター活用(3)何が変わるのか
第5回	図形分野におけるコンピューター活用 総括
第6回	コンピューターを活用した数学の授業実践に向けて 意見交換
第7回	模擬授業の準備(1) 課題研究と分析
第8回	模擬授業の準備(2) 指導案作成
第9回	模擬授業実践1 (1班から3班)意見交換, 振り返り
第10回	模擬授業実践1 (4班から6班)意見交換, 振り返り
第11回	模擬授業実践1 (7班から9班)意見交換, 振り返り
第12回	模擬授業実践2にむけて 総括と意見交換
第13回	模擬授業実践2 (1班から3班)意見交換, 振り返り
第14回	模擬授業実践2 (4班から6班)意見交換, 振り返り
第15回	模擬授業実践2 (7班から9班)意見交換, 振り返り

授業計画コメント

選択者人数によって、講義計画を変更することがある。

授業方法

講義と実習(班ごと)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

講義中の課題について約2時間程度を要する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	25 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	25 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	模擬授業実践

成績評価コメント

模擬授業の計画と実践に、どれだけ積極的に関わったかを自己評価・他者評価を行い、評価に含める。
課題は期限までに提出すること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

講義中やオフィスアワーで対応する。

教科書コメント

講義中に適宜配布する。

参考文献コメント

中学校学習指導要領, 高等学校学習指導要領を自由に閲覧できるようにしておく。(Webや電子媒体でも構わない)

その他

学習院内のコンピューターが自由に使えること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>